

浅川扇状地遺跡群

松ノ木田遺跡Ⅱ

—飯綱高原浅川線道路改良に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—

1997・3

長野市教育委員会

序

社会生活の変化と共に「物の豊さ」から「心の豊さ」が求められる今日、文化財は現代人の心の糧として欠くことのできぬ、貴重な国民的財産であると考えます。

特に埋蔵文化財は、直接大地に刻み込まれた歴史であり、当時の物質文化のみならず信仰・宗教等の精神史など、文化の始源をも内包する基準資料であり、埋蔵文化財そのものが歴史・文化を考えるうえでの実証者といえましょう。

このたび飯綱高原浅川線道路改良事業にともない、浅川扇状地遺跡群松ノ木田遺跡の発掘調査を実施いたしました。

事業予定地周辺は過去の調査で重要な埋蔵文化財が発見されており、古代史研究上注目されていた地域であり、今回の調査でも多大な成果が得られました。

本書はその成果を要約し、長野市の埋蔵文化財第82集として報告するものです。この報告書が地域古代史の解明や文化財保護の一助として、学術的に関係各方面に広くご活用頂ければ幸いに存じます。

最後に発掘調査から報告書刊行にいたるまで公私にわたり多大なご援助・ご指導を賜りました関係諸機関ならびに各位に心からお礼申し上げます。

平成9年3月

長野市教育委員会 教育長 滝澤忠男

例 言

- 1 本書は飯綱高原浅川線道路改良事業に伴い実施した埋蔵文化財発掘調査報告書である。
- 2 調査は長野建設事務所長の委託を受けて、長野市教育委員会が実施した。
- 3 調査地は長野市大字浅川東条286-1他に位置する。調査地は平成6年度に調査が実施された浅川扇状地遺跡群松ノ木田遺跡と同一の遺跡である可能性が高く、便宜的に今回も松ノ木田遺跡として報告するが、遺跡範囲等の確定に伴い将来的には正式な遺跡名称の付与が必要となろう。
- 4 本書は矢口の指導のもとに千野が執筆・編集した。
- 5 調査によって得られた諸資料は長野市教育委員会（長野市埋蔵文化財センター）で保管している。
- 6 本書は調査によって確認・検出された遺構・遺物を中心に、その基本資料を提示することに重点を置いた。資料掲載の要領は下記の通りである。
 - ・ 資料は検出されたものの中から、時期の明確に把握しうるものを中心に掲載した。ただし特殊なものはこの限りではない。時期・性格等不明瞭なものは資料掲載の対象から外したが、これらに関しては図面・出土遺物等閲覧し得るように保管してある。
 - ・ 遺構の測量は(株)写真測図研究所に委託し、コーディックシステムにより1：20の縮尺で基本原図を作成し、本書では基本的に1：60の縮尺に統一してある。ただし遺物出土状況等微細を要するものに関してはこの限りではない。
 - ・ 遺物実測図に関しては基本的に土器1：4、土器拓影1：3に統一してあるが、その他のものについては適宜縮尺を明示してある。

目 次

序
例言
第1章 調査経過
第1節 調査に至る経過
第2節 調査体制
第2章 調査
第1節 松ノ木田遺跡の調査経過と想定遺跡範囲について
第2節 層序
第3節 調査地周辺の考古学的環境
第4節 調査概要
第5節 遺構と遺物

挿 図 目 次

図1 松ノ木田遺跡調査経過と想定遺跡範囲	図19 出土土器拓影②
図2 基本土層序	図20 出土土器拓影③
図3 調査地周辺遺跡分布図	図21 出土土器拓影④
図4 調査区全測図	図22 出土土器拓影⑤
図5 調査区上層遺構実測図	図23 出土土器拓影⑥
図6 調査区下層遺構実測図①	図24 出土土器拓影⑦
図7 調査区下層遺構実測図②	図25 出土土器拓影⑧
図8 調査区下層遺構実測図③	図26 出土土器拓影⑨
図9 第1号住居址・第1号集石実測図	図27 出土土器拓影⑩
図10 第2号住居址・第2号集石実測図	図28 出土土器拓影⑪
図11 遺構実測図①	図29 出土土器拓影⑫
図12 遺構実測図②	図30 出土土器拓影⑬
図13 遺構実測図③	図31 出土土器拓影⑭
図14 遺構実測図④	図32 出土土器拓影⑮
図15 遺構実測図⑤	図33 出土土器拓影⑯
図16 遺構実測図⑥	図34 出土土器拓影⑰
図17 出土土器実測図	図35 出土土器拓影⑱
図18 出土土器拓影①	

第1章 調査経過

第1節 調査に至る経過

松ノ木田遺跡は長野市大字浅川東条地籍に位置し、浅川扇状地扇頂付近といえる。平成7年、長野建設事務所・浅川ダム建設事務所は、浅川総合開発事業の一環として飯綱高原浅川線道路改良事業に着手した。従来、建設事務所が施行する公共事業に関しては、県教委・建設事務所・市教委の3者にて事前に保護協議を実施し適宜保護措置を講じてきた。今回の事業に関しても、平成4年度より協議対象事業として取り上げられてきていたが、事業計画全体が大規模なものであり、部分的工事に関する調整が困難な状況であった。また今回の調査地点は従来把握されていた浅川扇状地遺跡群の範囲外であり、その面でも事前の調整を困難にしたものといえよう。平成7年5月21日、市埋蔵文化財センター職員が、偶然の機会に着工後の現地にて土器破片の存在を確認した。この結果、5月23日当センター職員が再度現地調査を実施し、遺物包含層ならびに遺構の一部が露出していることを確認した。このため急遽浅川ダム建設事務所に電話にて工事中断を依頼し、同日一時工事中断措置が取られるに至った。この後、6月12日県教委をまじえて再度保護協議を実施し、6月20日より緊急発掘調査を実施する運びとなった。調査は平成7年6月20日に開始し8月11日に現場におけるすべての作業を終了した。報告書作成作業は、調査日程の関係より次年度に先送りし、平成8年度調整作業を実施し、本書の刊行にいたった。

第2節 調査体制

(1) 平成7年度の調査

調査主体者	長野市教育委員会	教育長	滝澤 忠男	芳美 佐藤君江 佐藤幸子 原 汪子 成田とよみ
総括責任者	市埋蔵文化財センター	所 長	丸田 修三	宮島静美 中澤秀子 中村恭子 北原京子 小林三郎
庶務係	"	所長補佐	小林 重夫	美谷島昇 北村宣之 横川甚三 北沢栄子 長内和子
	"	職 員	青木 厚子	佐藤はま 藤田隆之
調 査 係	"	所長補佐	矢口 忠良	
	"	主 査	青木 和明	
	"	主 事	千野 浩	(2) 平成8年度の調査
		主 事	飯島 哲也	調査主体者
		主 事	風間 栄一	長野市教育委員会
		主 事	小林 和子	教育長
		専門主事	清水 武	滝澤 忠男
		専門員	中殿 章子	所 長
		専門員	寺島 孝典	丸田 修三
		専門員	山田美弥子	庶務係
		専門員	小野由美子	所長補佐
		専門員	西沢 真弓	小林 重夫
		専門員	永井 洋一	職 員
調査参加者	金子ゆき 吉沢トシ子 成田夜子 新	調 査 係		青木 厚子
	津三千子 佐藤ひで子 宮沢けさよ 小林さと 宮沢			所長補佐
				矢口 忠良
				主 査
				青木 和明
				主 査
				千野 浩
				主 事
				飯島 哲也
				主 事
				風間 栄一
				主 事
				小林 和子
				専門主事
				清水 武
				専門員
				中殿 章子
				専門員
				西沢 真弓

調査係	市埋蔵文化財センター	専門員	山田美弥子	調査係	市埋蔵文化財センター	専門員	宮川明美
”	”	専門員	小野由美子	”	”	専門員	小林まゆ佳
”	”	専門員	堀内 健次	整理作業参加者	岡沢治子 徳成奈於子	西尾千枝	
”	”	専門員	藤田 隆之	向山純子 松沢ナオエ	倉島敬子	小泉ひろ美	
”	”	専門員	勝田 智紀	武藤信子	塚田容子		

事業主体者である、長野建設事務所浅川ダム建設事務所ならびに、工事主体者である株式会社鹿熊組におかれ
ては、事業着手後にもかかわらず埋蔵文化財保護に対して深くご理解を頂き絶大な御協力を賜った。記して厚く
御礼申し上げたい。

第 2 章 調 査

第 1 節 松ノ木田遺跡の調査経過と想定遺跡範囲について

松ノ木田遺跡周辺の埋蔵文化財発掘調査は、現在までに3か所実施されており、また各事業に伴う事前の試掘
調査も複数箇所実施されている（図1）。

ここではこれら各調査の経過について、その概略を記し、松ノ木田遺跡の現状での遺跡範囲の想定と、その内容
について概観しておきたい。

第一次調査

長野県長野高等学校第2グラウンド造成事業に伴い、平成6年3月2日～6月30日まで、約3,700㎡について発掘
調査を実施した。中世・弥生時代後期・縄文時代にわたる、3面の遺構面を確認している。特に縄文時代は、前
期後半諸磯b式期を中心とする集落が検出されており、検出住居数は総数19軒におよぶ。出土遺物は多量の土器
の他にけつ状耳飾りを中心とする装飾品類が豊富であり、遺跡の特殊性を示すものといえよう。このほか中期の
敷石住居址も2軒検出されており、また包含層のグリッド調査からは中期の土器もかなりの量検出されているが、
後期の資料は希薄である。

第二次調査

今回報告する調査である。調査区東側で検出された旧流路以東に敷石住居址や集石が、また以西には土壌が集
中して検出されているが、調査区の西端は、浅川に向かって層序が落ち込んでいる状況がうかがわれ、遺跡範囲
の西端をほぼ確認しうる成果を得た。縄文後期が主体であるが、一部早期の絡状体圧痕紋系の土器も出土してお
り、松ノ木田遺跡の複雑な様相を垣間見せている。

第三次調査

第二次調査地点の北側に位置し、平成8年5月、ガソリンスタンド建設事業に伴い発掘調査を実施した。遺物
包含層が現地表下1,50mほどの深さに位置し、工事によって直接埋蔵文化財に影響がおよぶと判断される地下埋
設タンク部分のみの調査を実施している。第二次調査で検出した旧流路の延長部分が大半を占め詳細は不明な部
分が多いが、周辺のトレンチ調査の結果からは、この付近が遺跡の北西端となることが想定されている。出土土
器は、第2次調査同様縄文後期のものが主体を占めるが、一部に平安期の遺物も認められている。

試掘調査

No.1～No.3 地点

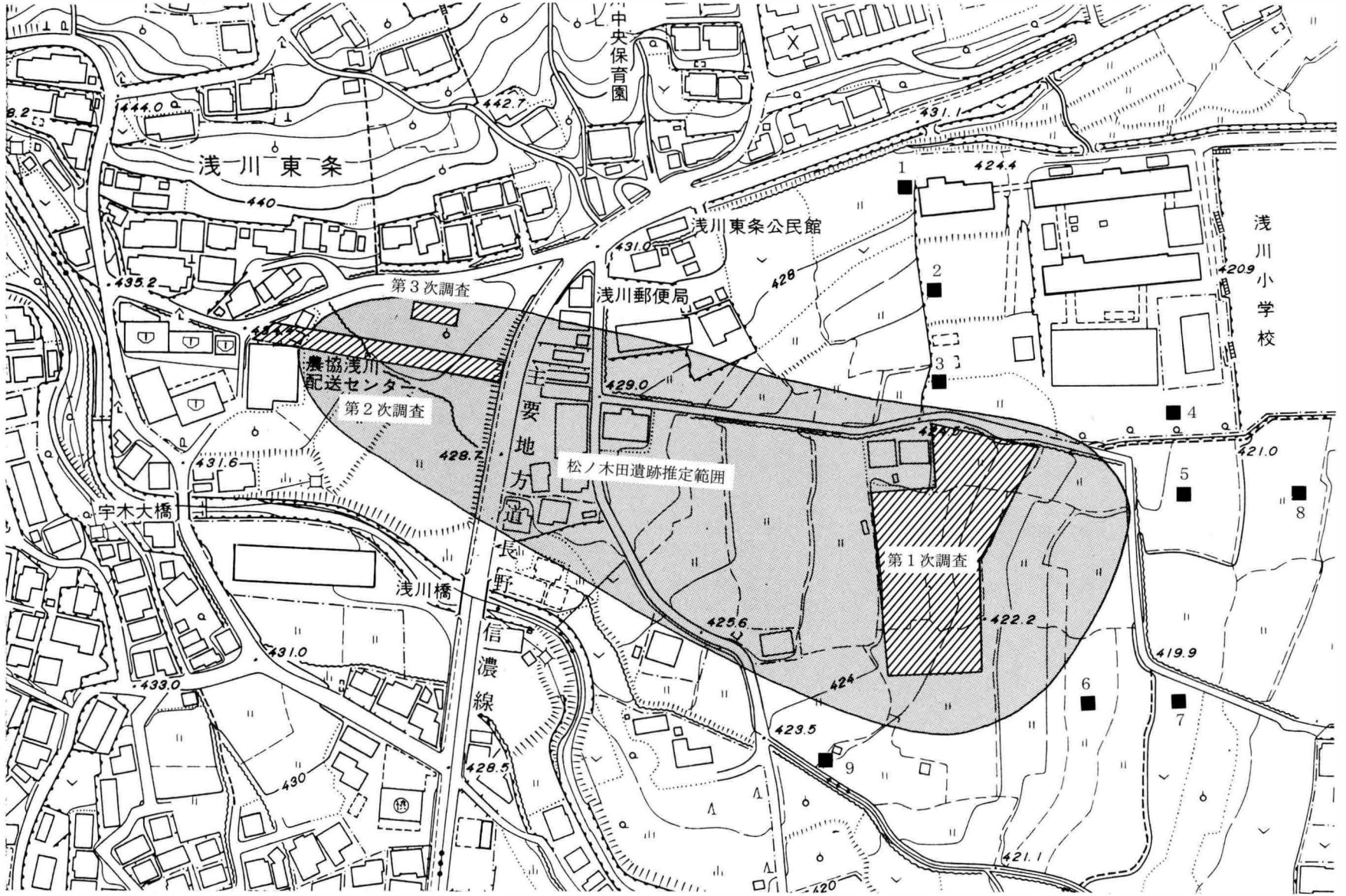


図1 松ノ木田遺跡調査経過と想定遺跡範囲 (1:5000)

長野高等学校第2グラウンド造成に伴う工事用道路の造成事業にあたり、確認調査を実施した。No.1・2地点では第一時調査で確認した縄文期の遺物包含層と同質のシルト質の黒褐色粘質土が確認されているが、土器・炭化物等の包含は認められず、またNo.3地点では同層の存在は確認されていない。

No.4 地点

市道「浅川小神楽橋線」道路改良事業に伴い確認調査を実施した。浅川小学校建設時にかなりの盛土が行なわれており、また盛土下は黄褐色粘土層以下すぐに混礫砂層となり、遺物包含層の存在は認められていない。

No.5～No.7 地点

長野高等学校第2グラウンド造成事業に伴い実施した確認調査地点である。No.5地点では縄文期の遺物包含層の末端と考えられる地層を確認しており、同層中よりかなり摩耗した土器辺を数片検出しているが、遺構や炭化物の包含は認められていない。No.6・7地点では弥生後期の遺物包含層の末端と考えられる地層を確認しているが土器・炭化物等の包含は確認されていない。なおこの層以下は混礫砂層となる。

No.8 地点

「長野市浅川総合センター（支所・公民館・市民体育館）」建設事業に伴い実施した試掘調査地点である。No.5地点同様、縄文期の遺物包含層の末端と考えられる地層を確認したが、土器・炭化物等の包含は認められていない。

No.9 地点

「浅川中央下水道ポンプ場」建設事業に伴い実施した確認調査地点である。遺物包含層と考えられる地層は全く確認されていない。

以上の結果よりすれば、「松ノ木田遺跡」は第1図に示したごとく浅川扇状地扇頂付近から東西約360m、南北最大135mの幅で展開するものと現状では想定され、縄文時代早期末から中世までの人々の活動の痕跡を複雑に残した、市内有数の複合遺跡であるととらえることができよう。

第2節 層 序

第2図は調査区中央付近にて確認した土層柱状図である。堆積土壌は基本的に8層に分層される。盛り土層は旧建物による攪乱・造成によるものと考えられる。盛り土下層は灰色粘土層であり、第4層では水田床土と思われる灰褐色粘質土層が検出されており、既破壊建物構築前の水田耕作地であったことを示している。

第6層で確認された黒褐色粘質土層が遺物包含層である。約45cmという厚い堆積であるが、基本的には上下2層に分離することが可能で、下層は第7層への漸移層となる。後述するように第6層中位で一部遺構検出が可能で、上層・下層の2面の遺構面を確認している。

第8層以下は基本的に砂礫層となり、遺物包含層等は存在しない。



図2. 基本土層序

第3節 調査地周辺の考古学的環境

飯綱山を水源とする浅川は山間部を侵食流下した後、浅川東条地籍の通称浅川原口を谷口として盆地に流入し、東南方向を主軸とした平均斜度1/45を計測する典型的な扇状地を形成する。この扇状地上には多くの遺跡が存在し、長野市内でも有数の規模を誇る「浅川扇状地遺跡群」として把握されている。以下浅川扇状地遺跡群の代表的な遺跡について概説し、周辺の考古学的環境としたい。

旧石器時代は、浅川源流に近い猫又池・大池に遺跡が確認されているが扇状地上にはその存在は確認されていない。

縄文時代には湯谷・赤萱平・苅田・牟礼バイパスA地点・徳間榎田・浅川端・松ノ木田の各遺跡が確認されている。これらはともに駒沢川と浅川流域に集中する傾向が認められ、正式調査を受けた遺跡としては前者に牟礼バイパスA地点遺跡では前期前葉の住居址1軒、浅川端遺跡では同じく前期前葉の住居址1軒・土壙1基が検出されている。松ノ木田遺跡では前期後葉の集落址がされており、住居址18軒と多数の土壙が検出されている。出土土器の量もおびただしくこれまで不明であった当該期の様相が明らかにされてきている。また、けつ状耳飾りを中心とする装飾品類も多量に出土しており前期後葉の中核的集落址として注目される。

弥生時代には徳間柳田遺跡・二ツ宮遺跡・本堀遺跡・牟礼バイパスD地点遺跡・浅川端遺跡・神楽橋遺跡・吉田高校グランド遺跡・本村東沖遺跡等がある。徳間柳田遺跡・本堀遺跡・牟礼バイパスD地点遺跡・浅川端遺跡では主として中期の粟林式期の遺構が、また神楽橋遺跡・吉田高校グランド遺跡・二ツ宮遺跡・本村東沖遺跡では後期の吉田式・箱清水式期の遺構が検出されている。吉田高校グランド遺跡・二ツ宮遺跡・本村東沖遺跡ではそれぞれ時期的に継続する単一集落が検出されており、集落研究に良好な資料を提供している。また本村東沖遺跡では比較的少量の北陸系土器が出土しており当該期の地域間交流の一端を示している。

古墳時代に入り浅川扇状地を特徴づけるのは中期集落の展開であろう。有名な駒沢祭祀遺跡をはじめとして、近年牟礼バイパスB地点遺跡・下宇木遺跡・二ツ宮遺跡・本村東沖遺跡など良好な集落遺跡の検出例が増えてきており、その集中度は善光寺平の中でも特異である。本遺跡に距離的に近い駒沢祭祀遺跡や二ツ宮遺跡などは今回検出された1号古墳の造営集団として把握される可能性もあろう。また本村東沖遺跡では5世紀中葉から6世紀初頭にかけての住居址56軒を検出している。陶器編年I型式2段階～4段階に対応すると考えられる古手の須恵器が比較的少量に出土し、多量の石製模造品未製品を出土するなど製作工人に関連する可能性が高い住居址が存在する。また子持ち勾玉・土鈴など特殊な遺物を出土する住居址が存在するなど当該期中核的集落であった可能性が高い。その立地を合わせ考えるならば、本村東沖遺跡と犀川以北の当該期の盟主的な古墳群である地附山古墳群との関連を想定することは容易であり、この遺跡が地附山古墳群に造営に直接関わった集落として理解することもあながち根拠のないことではなかろう。

古墳時代後期～平安時代にかけては比較的継続して集落が展開する。浅川西条遺跡・牟礼バイパスB・C・D地点遺跡・三輪遺跡・二ツ宮遺跡などが代表的な遺跡といえよう。ただし大規模集落が長期間にわたって同一箇所に存在するのではなく、時期ごとに立地を異にしつつ中核的な集落が形成されている可能性が高い。

三才田子遺跡は数棟の堀立柱建物や円面硯の出土などから東山道多古駅もしくは何らかの官衙址と推定されている。また稲添遺跡では瓦塔が、二ツ宮遺跡では鷓尾破片が出土しており、初期仏教関連の遺物として注目される。



1. 松ノ木田遺跡(調査地) 2. 松ノ木田遺跡(1次調査地) 3. 檀田遺跡 4. 神楽橋遺跡
 5. 浅川西条遺跡 6. 牟礼バイパスB地点遺跡 7. 浅川端遺跡 8. 湯谷古墳群
 9. 押鐘遺跡 10. 盛伝寺居館跡 11~12. 本村東沖遺跡 13. 長野吉田高校グランド遺跡
 14. 押鐘遺跡 15. 下宇木遺跡 16. 相ノ木城跡 17~19. 三輪遺跡 20. 稻添遺跡
 21. 本堀遺跡

図3. 調査地周辺遺跡分布図

第4節 調査概要

今回の調査で検出した遺構は下記のとおりである。

住居址 2（内敷石住居址1）・集石2 土壙81 柱穴 多数 溝1 旧流路1

これらの遺構は図4に示したごとく、一部を第6層上面で検出したが、大部分は第6層下部から第7層上面にかけて確認を行ない検出した。前述のごとく、工事着工後に遺跡の存在が判明したために、第6層上面の遺構は大半が破壊されてしまったものと考えられる。

住居址はグリッドC地点で敷石住居址を、また調査区東端グリッドH地点にて方形の石囲炉を検出した。敷石住居址は柄鏡形を呈するものと思われるが長方形の張り出し部のみを検出したのみである。第6層中より掘り込まれており、敷石の床面の確認より住居址と判明したものである。石囲炉を有する住居址も、第6層中より掘り込まれており、炉の検出をもって住居址と判明したため、平面プラン等は不明である。

集石は住居址同様グリッドC地点ならびに調査区東端にて検出されている。限られた調査範囲からはその規模等詳細は不明であるが、2号集石は南北方向に伸びる形態を呈する。集石上面よりともに比較的多量の土器が出土している。

土壙は81基検出されている。旧流路を挟んで東西に分布するが、西側にやや集中的な分布が認められる。平面形・規模等種々のものが存在するが、出土遺物等から明確に墓壙と判断できる例は存在しない。

柱穴は土壙同様調査区全域で検出しているが、掘り込み規模は概して浅い例が多く、その配列から明確に建物址や柵列などと判断しうるものは存在しない。

旧流路と考えられる溝状の落ち込みが北西から南東方向へ直線的に伸びる形で検出されている。明確な掘り込みは認められず、また混礫砂層や砂層の堆積から旧流路と判断した。覆土内から時期を特定しうる明確な遺物は出土していないが、上面は第5層におよんでいない点や、この流路を挟んで東側にしか住居址や集石遺構が存在しない点を考慮するならば縄文期の流路である可能性が高いものと判断した。

今回の調査区は遺跡の北西端部に位置し、調査範囲も限定されているために、その全容を把握することはできない。しかし今回の調査区内で検出した遺構の分布から判断すれば、遺跡の中心は住居や敷石遺構が集中する調査区東端以東にあるものと考えられ、その外延にあたる調査区西側に、土壙等の分布が認められるものといえよう。また前述のごとく、調査区西端は、浅川に向かって層序の落ち込みが認められ、遺構の存在も確認できなかったことよりすれば、松ノ木田遺跡全体の西端を示すものと判断しえよう。

第5節 遺構と遺物

第1号住居址（図9）

グリッドCにて検出したもので、第1号集石東側に位置する敷石住居址である。第6層中より掘り込まれており、集石部分の調査中に敷石の床面を発見したことにより住居址であることが判明したものである。平面プランは柄鏡形を呈するものと思われるが、長方形の張り出し部を検出したのみでそれ以外は調査区外となる。

張り出し部は長さ1,74m・幅最大で1,50mを測る。配石は一部抜き取られているものの扁平な河原石を用いて張り出し部前面に施されている。前述のごとく床面の検出によって住居址であることが判明したために、壁の立ち上がり等は確認されていない。配石のレベルはほぼ平坦であるが、張り出し部先端に横方向に置かれたものはいちだん高くなっており、20cmほどの高さを有する。この石の南側の住居址外に深鉢（図17-7）と小型の土器（4）がまとまって出土している。また図18・1～30、図19・31～44は配石上面より出土したものである。

图4 调查区全剖图 (1:200)







図6 調査区 下層遺構実測図① (1 : 80)

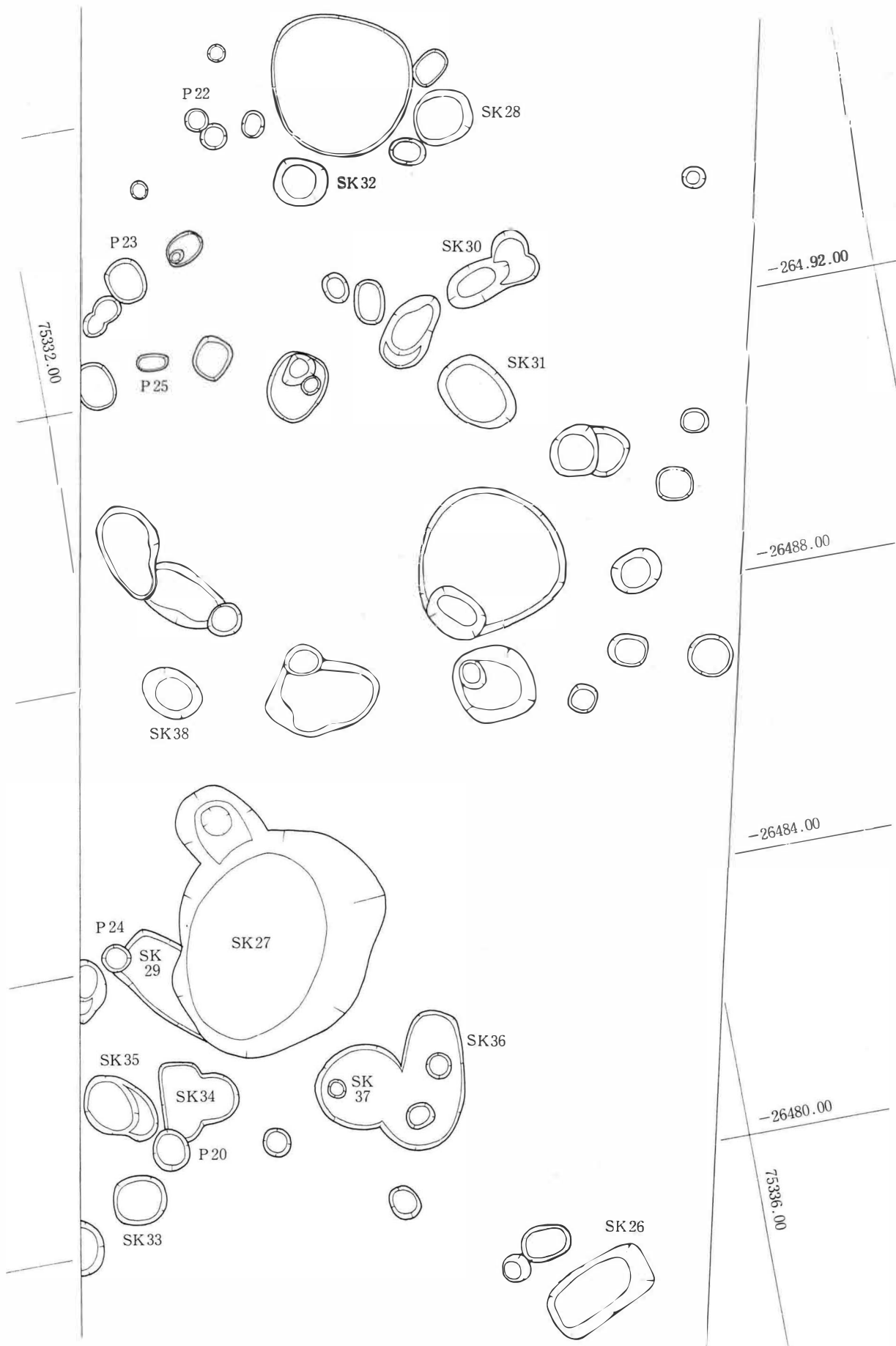


図7 調査区 下層遺構実測図② (1 : 80)

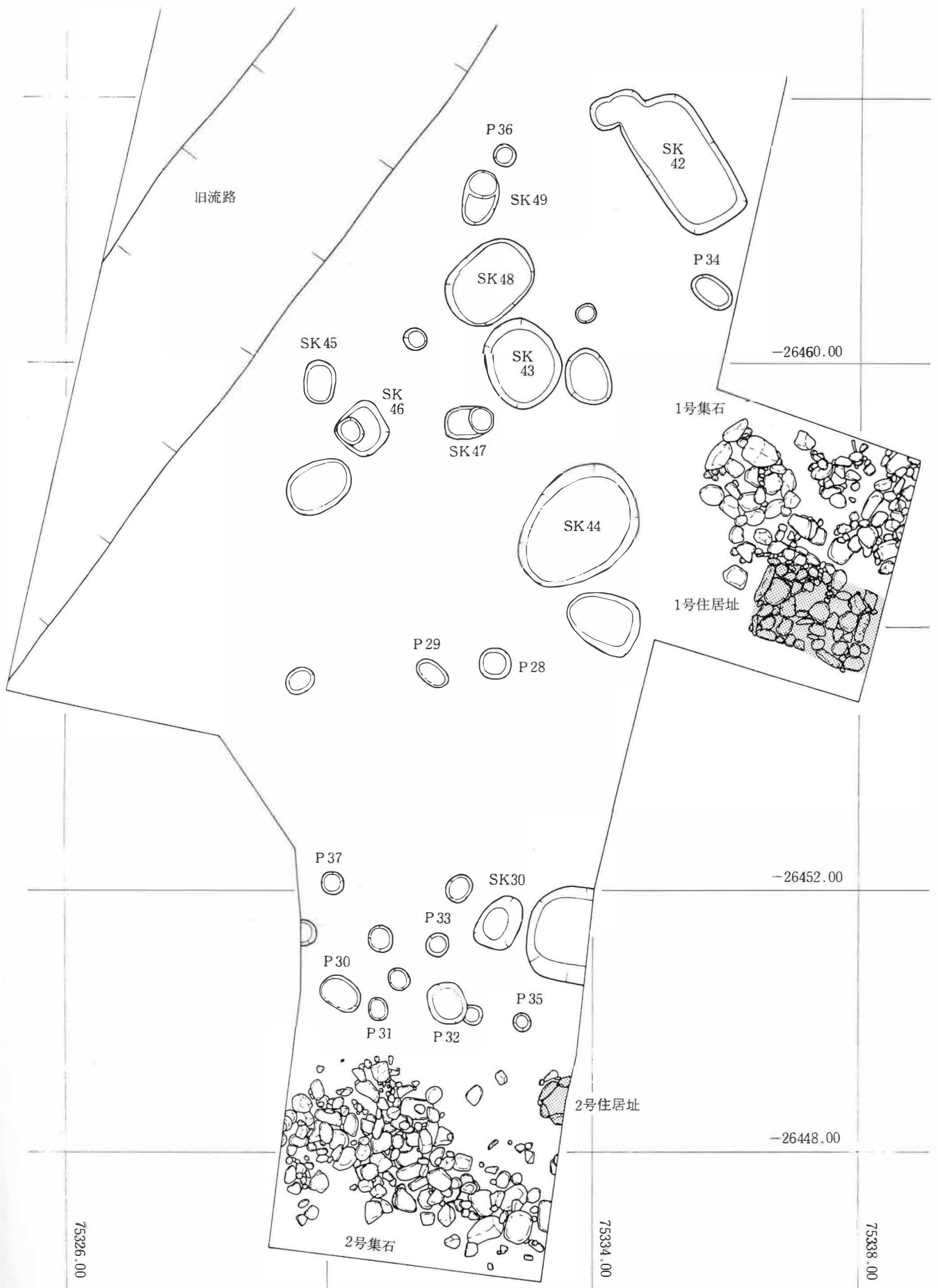


図8 調査区 下層遺構実測図③ (1 : 80)

第2号住居址（図10）

グリッドHにて検出したもので、第2号集石西側に位置するものである。第2号集石の調査過程で方形の石囲炉を検出したことにより住居址の存在が判明したものである。石囲炉は約2/3を検出したが北側は調査区外となる。細長い河原石を利用して形成したもので長軸約80cmを測る。壁の立ち上がり等は確認されておらず、住居址自体の平面プランは不明であるが、2号集石の北西隅付近が不整な円形状に湾曲している点を考慮するならば、この部分が住居の構築にあたって改変を受けている可能性も想定できる。確実に本住居址に伴う遺物等は確認されていない。

第1号集石（図9）

グリッドCにて検出したものである。第6層中に検出されており、東側一段下がったところに第1号住居址が確認されている。配石にある程度の粗密はあるものの、おおそ南北方向に直線的に伸びる形態を呈しており、確認された範囲での長さは約3,10m、幅1,80mを測る。調査最終段階で配石をすべて除去したが、下部からは明確な石組遺構等は検出されていない。配石内より出土した土器には拓影45～67がある。

第2号集石（図10）

グリッドHにて検出したものである。第6層下層に検出されており北側には第2号住居址が存在する。限られた調査範囲からは全容は不明であるが、北東から南西方向へ直線的に伸びる形態を呈する。確認された範囲での長さは約4,20m、幅は最大で1,80m程を測る。第1号集石にくらべて、配石は全体に密でありしっかりしたものである。中央付近の配石下部には細長い河原石を意識的に並べている状況が認められたが、明確な石組遺構とはとらえられるものではない。配石内より出土した土器には拓影206～245がある。

土壙 今回の調査で土壙は総数81基検出されているが、ここではそのうち出土遺物があったものについてのみその概略を述べておきたい

1号土壙（図11）

上層にて検出されたもので1/2以上が調査区外となる。一辺4,00mほどの隅丸方形プランを呈するものと考えられる。確認面からの掘り込みは平均10cm前後と浅く掘り込みも不明瞭なものである。覆土は暗褐色粘質土に多量の小礫を含むものであった。図示し得る遺物は出土していない。

2号土壙（図11）

上層にて検出されたもので、大半を6号土壙に切られる。50×80cmほどの方形を呈するものと思われる。確認面からの掘り込みは20cm前後である。第26図 298～302が出土している。

3号土壙（図11）

上層にて検出されたもので、1,30×0,80mの隅丸方形を呈する。2段にわたる掘り込み有し、最深部は確認面から約70cmの深さを測る。第26図 303～306が出土している。

4号土壙（図11）

上層にて検出されたもので、1,20×0,90mの長円形を呈する。確認面からの掘り込みは平均20cm前後を測る。図示し得る遺物は出土していない。

6号土壙（図11）

上層にて検出されたもので、2号土壙を切って構築される。1,50×0,80mのやや不整な隅丸長方形を呈する。確認面からの掘り込みは平均30cm前後を測り掘り込みも比較的しっかりしている。第26図 307～314が出土している。

7号土壙 (図11)

上層にて検出されたもので、径1,10mほどの円形土壙である。確認面からの掘り込みは平均20cm前後である。第26図 315・316が出土している。

8号土壙 (図11)

上層にて検出されたもので、径0,90mほどの円形土壙である。確認面からの掘り込みは平均90cm前後を測り掘り込みも直に近い。第27図 319～322が出土している。

9号土壙 (図11)

上層にて検出されたもので、1,40×1,20mほどのやや不整な隅丸長方形を呈する。確認面からの掘り込みは平均15cm前後と浅く掘り込みも不明瞭なものであった。第26図 317・318が出土している。

10号土壙 (図12)

上層にて検出されたもので、1,80×1,30mのやや不整な隅丸長方形を呈する。確認面からの掘り込みは平均15cm前後と浅く、掘り込みも不明瞭なものであった。第26図 326～331が出土している。

11号土壙 (図12)

上層にて検出されたもので、1,40×1,10mの隅丸長方形を呈する。確認面からの掘り込みは平均20cm前後を測る。図示し得る遺物は出土していない。

12号土壙 (図12)

上層にて検出されたもので、北側は大半が調査区外となる。径1,20mほどの円形土壙と考えられる。内部に柱穴状の落ち込みを有し、確認面からの掘り込みは平均60cm前後と深く、掘り込みもしっかりしたものである。第27図 332～335が出土している。

13号土壙 (図12)

上層にて検出されたもので、2,50×2,10mのやや不整な円形土壙である。確認面からの掘り込みは平均20cm前後と浅い。土壙南西隅の床面上より第17図5の浅鉢が押し潰された状況で、逆位で出土している。接合の結果ほぼ完成に近い形に復元し得た。

14号土壙 (図12)

上層にて検出されたもので、80×60cmの長円形を呈する。確認面からの深さは平均50cm前後である。図示し得る遺物は出土していない。

15号土壙 (図12)

上層にて検出されたもので、80×60cmの長円形を呈する。確認面からの深さは平均40cm前後である。図示し得る遺物は出土していない。

16号土壙 (図12)

上層にて検出されたもので、70×50cmの長円形を呈する。確認面からの深さは平均15cm前後である。図示し得る遺物は出土していない。

17号土壙 (図12)

上層にて検出されたもので、径50cmの円形を呈する。確認面からの深さは平均30cm前後である。第27図 336～341が出土している。

18号土壙（図13）

上層にて検出されたもので、径80cmの円形を呈する。確認面からの深さは平均30cm前後である。図示し得る遺物は出土していない。

19号土壙（図13）

上層にて検出されたもので、1,60×1,10mの長円形土壙である。確認面からの掘り込みは平均30cm前後であるが掘り込みはしっかりしたものであった。第27図 341～345が出土している。

20号土壙（図13）

上層にて検出されたもので1,10×0,50mの長円形土壙である。二段にわたる掘り込みを有し、最深部での深さは確認面から25cm前後を測る。テラス部分より第17図 2の深鉢形土器が出土している。

21号土壙（図13）

上層にて検出されたもので、0,70×0,50mの方形土壙である。確認面からの掘り込みは平均20cm前後である。図示し得る遺物は出土していない。

22号土壙（図13）

上層にて検出されたもので、0,90×0,80mのやや不整な隅丸方形を呈する。確認面からの掘り込みは平均20cm前後である。図示し得る遺物は出土していない。

23号土壙（図13）

上層にて検出されたもので、径30cmほどの円形土壙である。確認面からの掘り込みは30cm前後で比較的しっかりしている。図示し得る遺物は出土していない。

24号土壙（図13）

下層にて検出されたもので、1,30×1,00mほどの長円形土壙である。確認面からの掘り込みは平均30cm前後である。第27図 346～349が覆土内より出土している。

25号土壙（図13）

下層にて検出されたもので、径0,70mほどの円形土壙である。柱穴状の落ち込みによる二段にわたる掘り込みを有する。確認面からの掘り込みは最深部で40cm前後を測る。図示し得る遺物は出土していない。

26号土壙（図13）

下層にて検出されたもので、径50cmほどの不整円形土壙である。二段にわたる掘り込みを有し、確認面からの掘り込みは、最深部で20cm程を測る。図示し得る遺物は出土していない。

27号土壙（図14）

上面は上層にて確認されたが、上層はやや不明瞭な方形プランを呈していたため当初住居址を想定して調査を進めた。しかし下層にいたって不整円形を呈するやや大規模な土壙であることが判明した。29号土壙を切って構築されており、径2,10mほどのやや不整な円形プランを呈する。確認面からの掘り込みは平均35cm前後を測るが、掘り込みは全体になだらかである。覆土内より第28図第28図 353～369の土器が出土している他、覆土上層より石剣が出土している。

28号土壙（図13）

下層にて検出されたもので、径0,60mほどの円形土壙である。確認面からの掘り込みは平均40cm前後と深く、掘り込みもしっかりしている。覆土内より第27図 350～352の土器が出土している。

29号土壙（図14）

下層にて検出されたもので

れるが、詳細は不明。確認面からの掘り込みは10cm前後と浅い。図示し得る遺物は出土していない。

31号土壙（図14）

下層にて検出されたもので、0,90×0,60mの土壙である。確認面からの掘り込みは平均20cm前後を測る。第28図370～372が出土しているがいずれも同一個体と考えられる。

32号土壙（図14）

下層にて検出されたもので、径60cmほどの円形土壙である。確認面からの掘り込みは平均35cm前後と深く、掘り込みもしっかりしている。第28図373・374が出土している。

33号土壙（図14）

下層にて検出されたもので、径50cmほどの円形土壙である。確認面からの掘り込みは10cm前後と浅い。図示し得る遺物は出土していない。

34号土壙（図14）

下層にて検出されたもので、0,90×0,80mの不整形を呈する。確認面からの掘り込みは10cm前後と浅く掘り込みも不明瞭である。図示し得る遺物は出土していない。

35号土壙（図14）

下層にて検出されたもので0,80×0,60mの長円形土壙である。二段にわたる掘り込みを有し、確認面からの深さは15cm前後を測る。図示し得る遺物は出土していない。

36号土壙（図15）

下層にて検出されたもので、37号土壙と切り合うが先後関係は不明である。1,50×0,60ほどの長円形土壙で、内部に柱穴状の落ち込みを二つ有するが本土壙に伴うものかは不明である。確認面からの掘り込みは平均20cm前後である。第28図375～377が出土している。

37号土壙（図15）

下層にて検出されたもので、36号土壙と切り合う。径0,60mほどの円形土壙で内部に柱穴状の落ち込みを有する。第28図378～380が出土している。

38号土壙（図15）

下層にて検出されたもので、径0,60mほどの不整形円形を呈する。確認面からの掘り込みは10cm前後と浅く掘り込みも不明瞭なものである。第28図381が出土している。

39号土壙（図15）

下層にて検出されたもので北側と東側は調査区外となる。長径1,60mほどのやや不整な長円形土壙と思われる。確認面からの掘り込みは20cm前後であるが、緩やかで不明瞭な掘り込みである。第28図382～389が出土している。

40号土壙（図15）

下層にて検出されたもので、径0,80mほどの円形土壙である。確認面からの掘り込みは平均10cm前後である。第29図390～394が出土している。

41号土壙（図15）

下層にて検出されたもので南側は若干が調査区外となる。1,00×0,50mほどの長円形土壙で、二段にわたる掘り込みを有する。確認面からの掘り込みは最深部で30cm程を測る。第29図395～398が出土している。

42号土壙（図15）

下層にて検出されたもので、1,60×0,80mほどの隅丸長方形土壙である。南西隅に方形の張り出しが認められるが、本遺構に直接伴うものかは不明である。確認面からの掘り込みは20cm前後である。覆土内より第29図399に

示した蓋状の土製品や400～418の土器が出土している。

43号土壙（図15）

下層にて検出されたもので、1,00mほどの円形土壙である。確認面からの掘り込みは平均25cm前後を測り、比較的しっかりした掘り込みである。図示し得る遺物は出土していない。

44号土壙（図16）

下層にて検出されたもので、1,60×1,20mのやや大型の不整形円形土壙である。確認面からの掘り込みは15cm前後である。図示し得る遺物は出土していない。

45号土壙（図16）

下層にて検出されたもので、0,50×0,30mの長円形土壙である。確認面からの掘り込みは平均20cm前後である。図示し得る遺物は出土していない。

46号土壙（図16）

下層にて検出されたもので、一辺0,50mほどの不整形な方形土壙である。二段にわたる掘り込みを有し最深部は確認面より25cmの深さを測る。図示し得る遺物は出土していない。

47号土壙（図16）

下層にて検出されたもので、長径0,50mほどの長円形土壙である。二段にわたる掘り込みを有し最深部は確認面より20cmの深さを測る。図示し得る遺物は出土していない。

48号土壙（図16）

下層にて検出されたもので、1,10×0,80の隅丸方形土壙である。確認面からの掘り込みは平均20cm前後を測り、覆土内より第30図 419が出土している。

49号土壙（図16）

下層にて検出されたもので、長径0,60mほどの長円形土壙である。二段にわたる掘り込みを有し、最深部は確認面より25cmの深さを測る。図示し得る遺物は出土していない。

50号土壙（図16）

下層にて検出されたもので、長径0,60mほどの長円形土壙である。確認面からの掘り込みは平均25cm前後を測る。覆土内より第30図 420～422が出土している。

51号土壙（図16）

下層にて検出されたもので、1,30×0,60mの比較的大規模な長円形土壙である。確認面からの掘り込みは平均30cm前後と深い。図示し得る遺物は出土していない。

52号土壙（図16）

下層にて検出されたもので、0,70×0,50mの隅丸方形土壙である。確認面からの掘り込みは平均20cm前後である。図示し得る遺物は出土していない。

53号土壙（図16）

下層にて検出されたもので、1,10×0,80mの長円形土壙である。確認面からの掘り込みは平均15cm前後である。図示し得る遺物は出土していない。

54号土壙（図16）

下層にて検出されたもので南側は調査区外となる。確認面からの掘り込みは平均35cm前後を測り、掘り込み規模もしっかりしている。図示し得る遺物は出土していない。

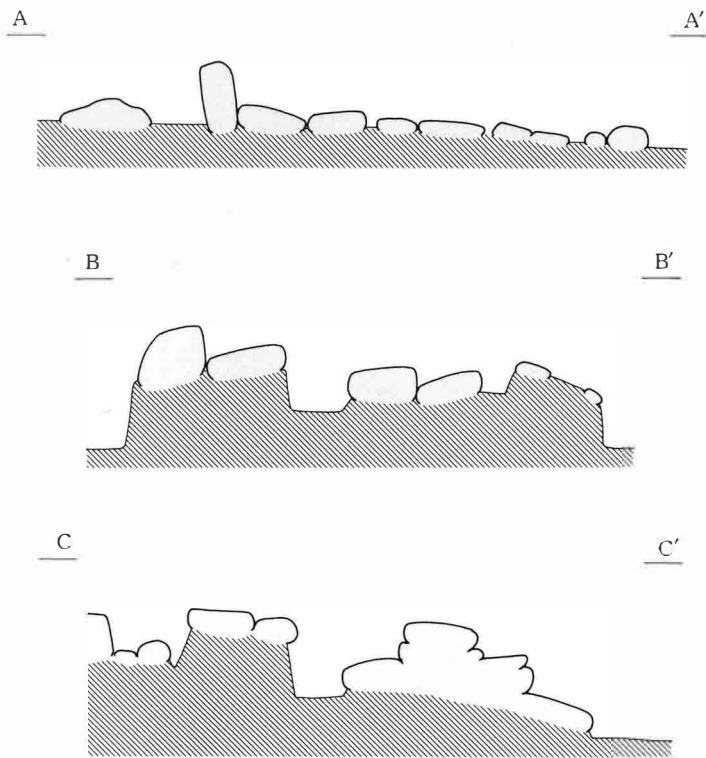
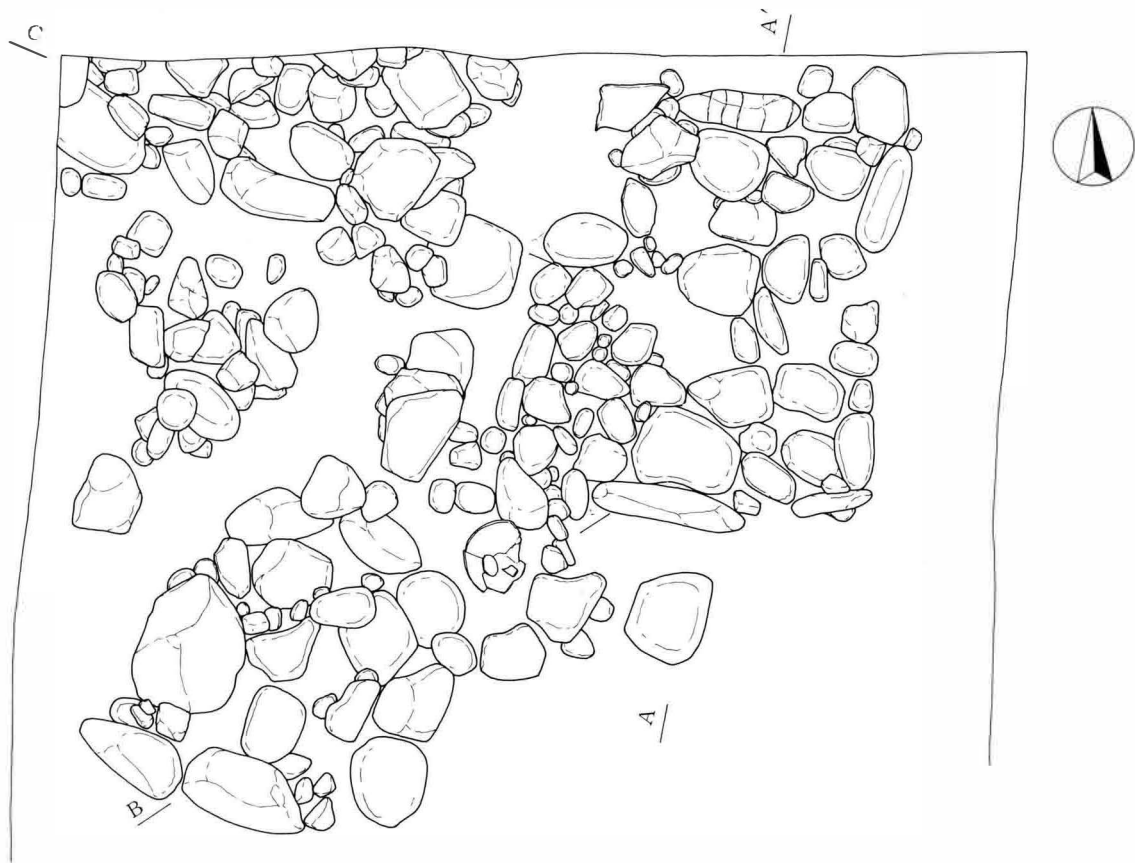


图9 第1号住居址·第1号集石实测图(1:30)

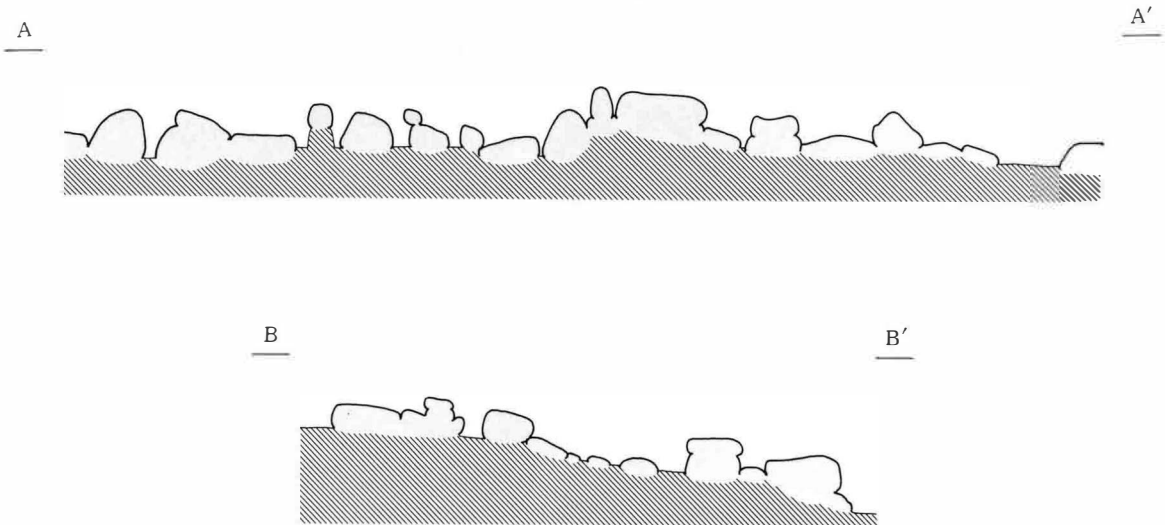
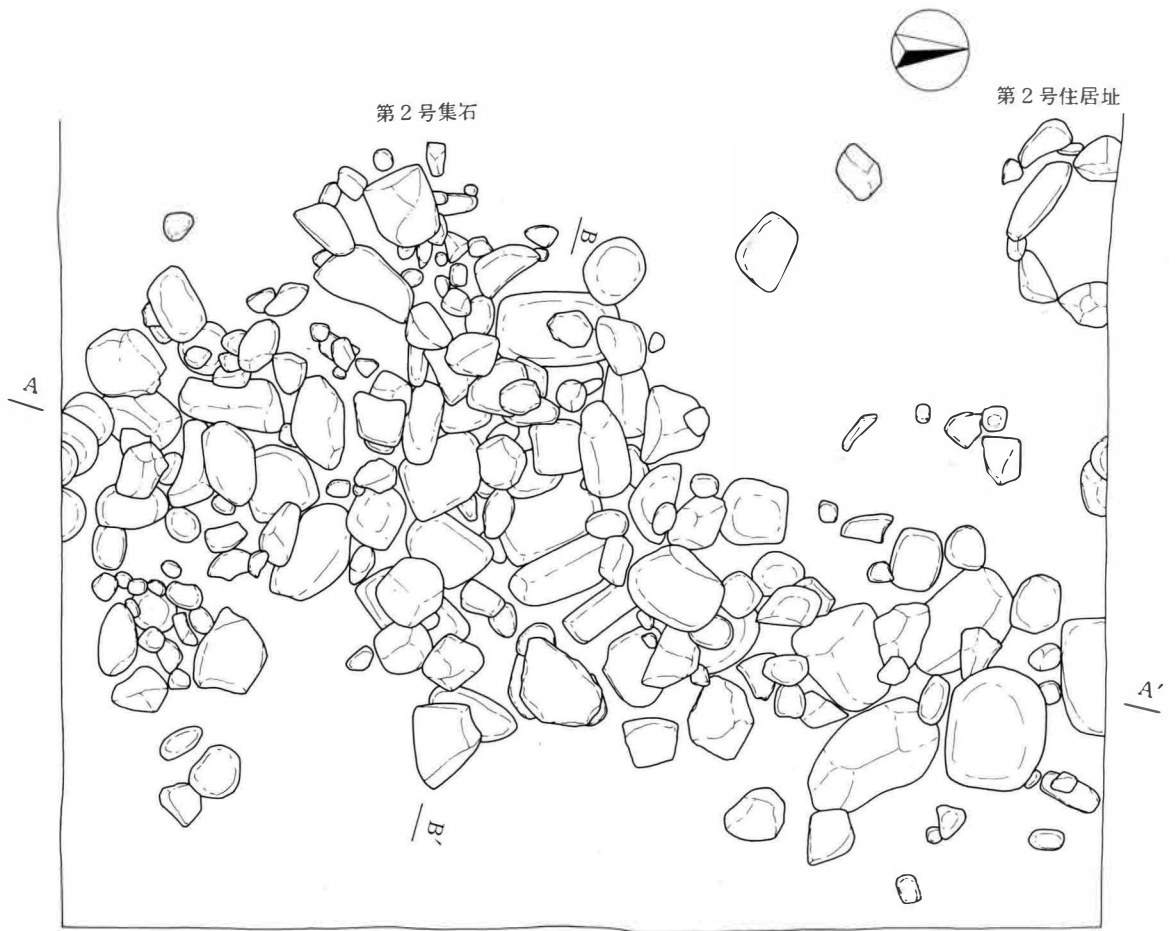


图10 第2号住居址·第2号集石实测图 (1:30)

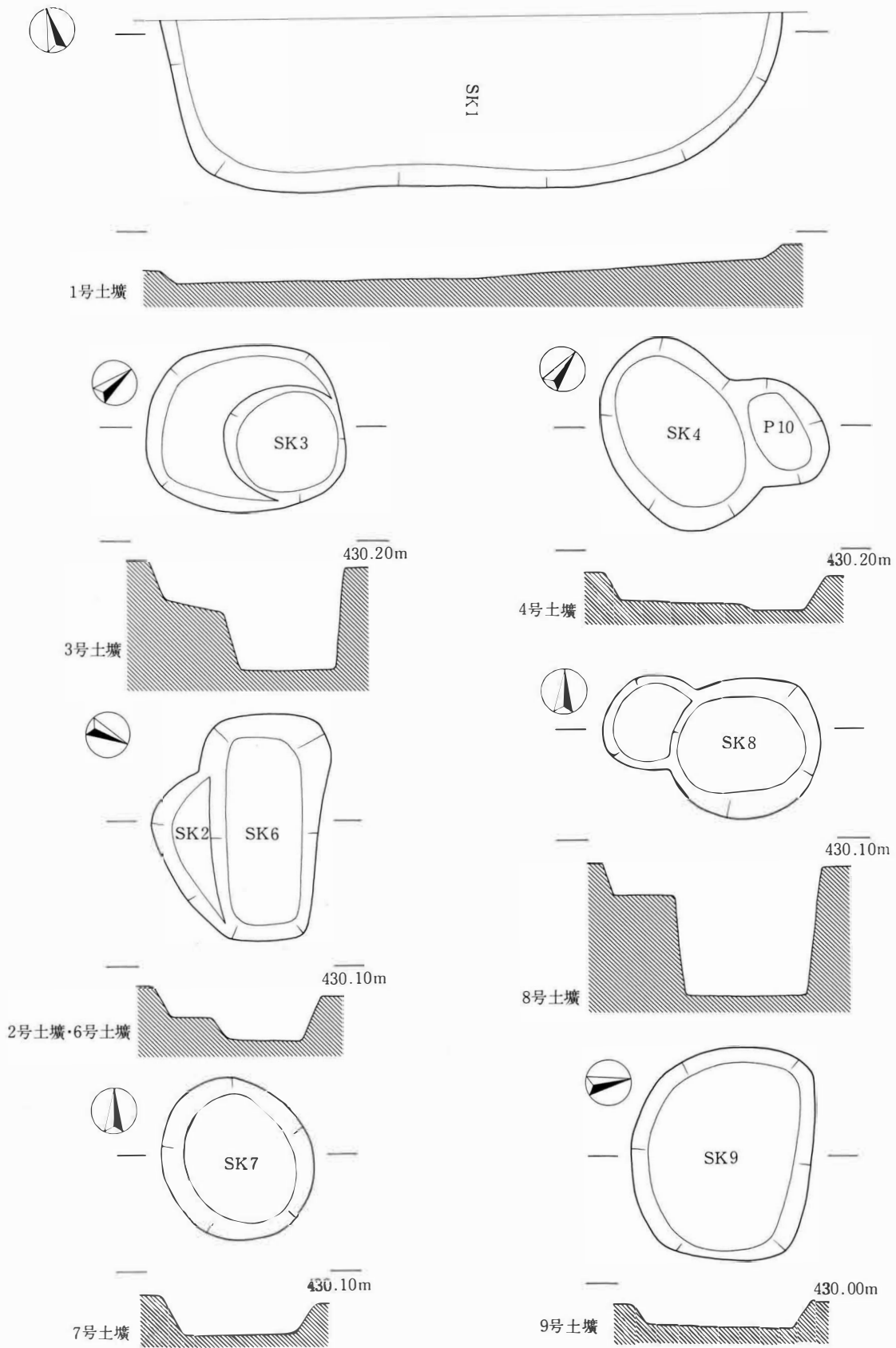


図11 遺構実測図① (1 : 40)

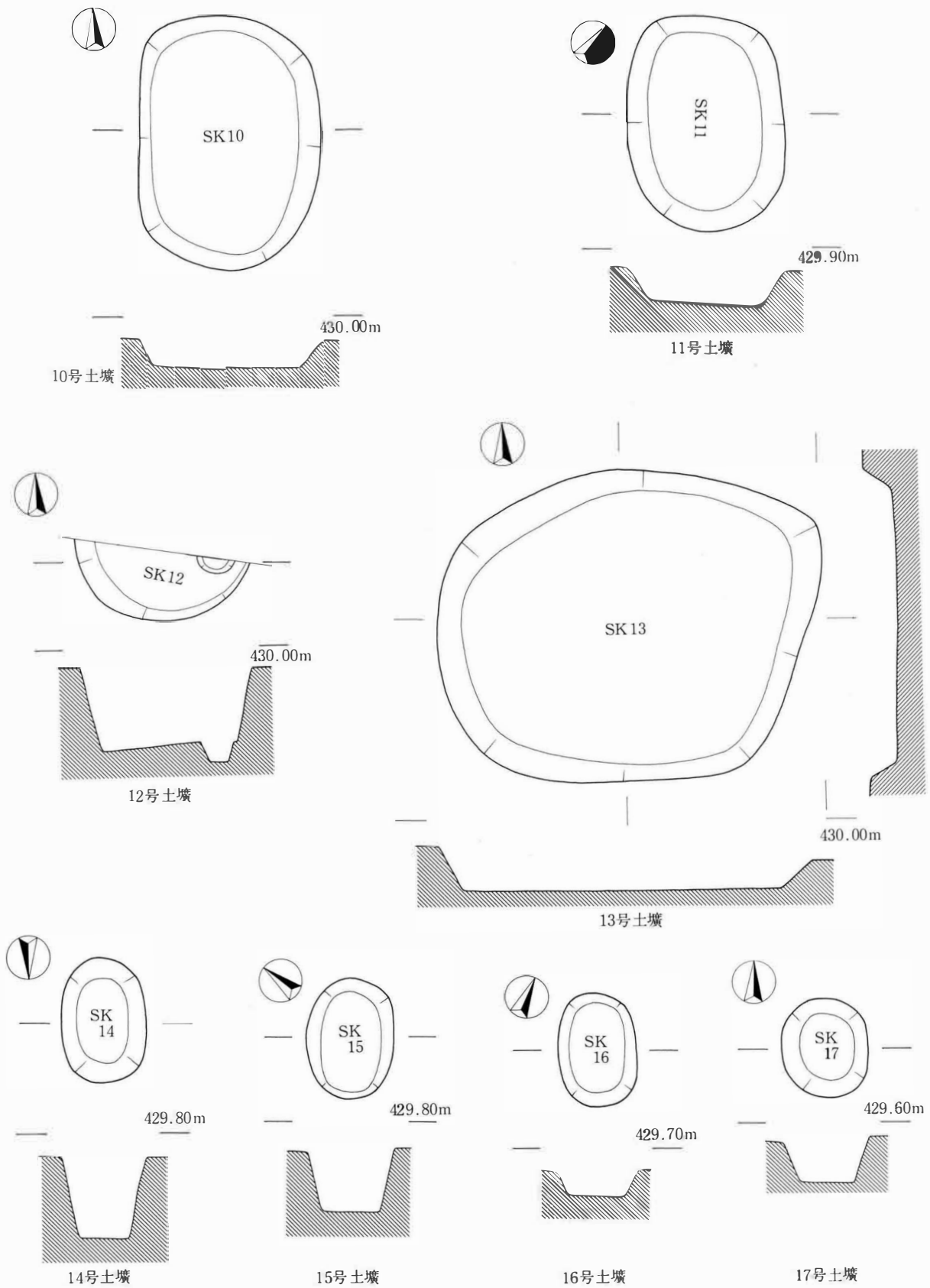


图12 遺構実測図② (1 : 40)

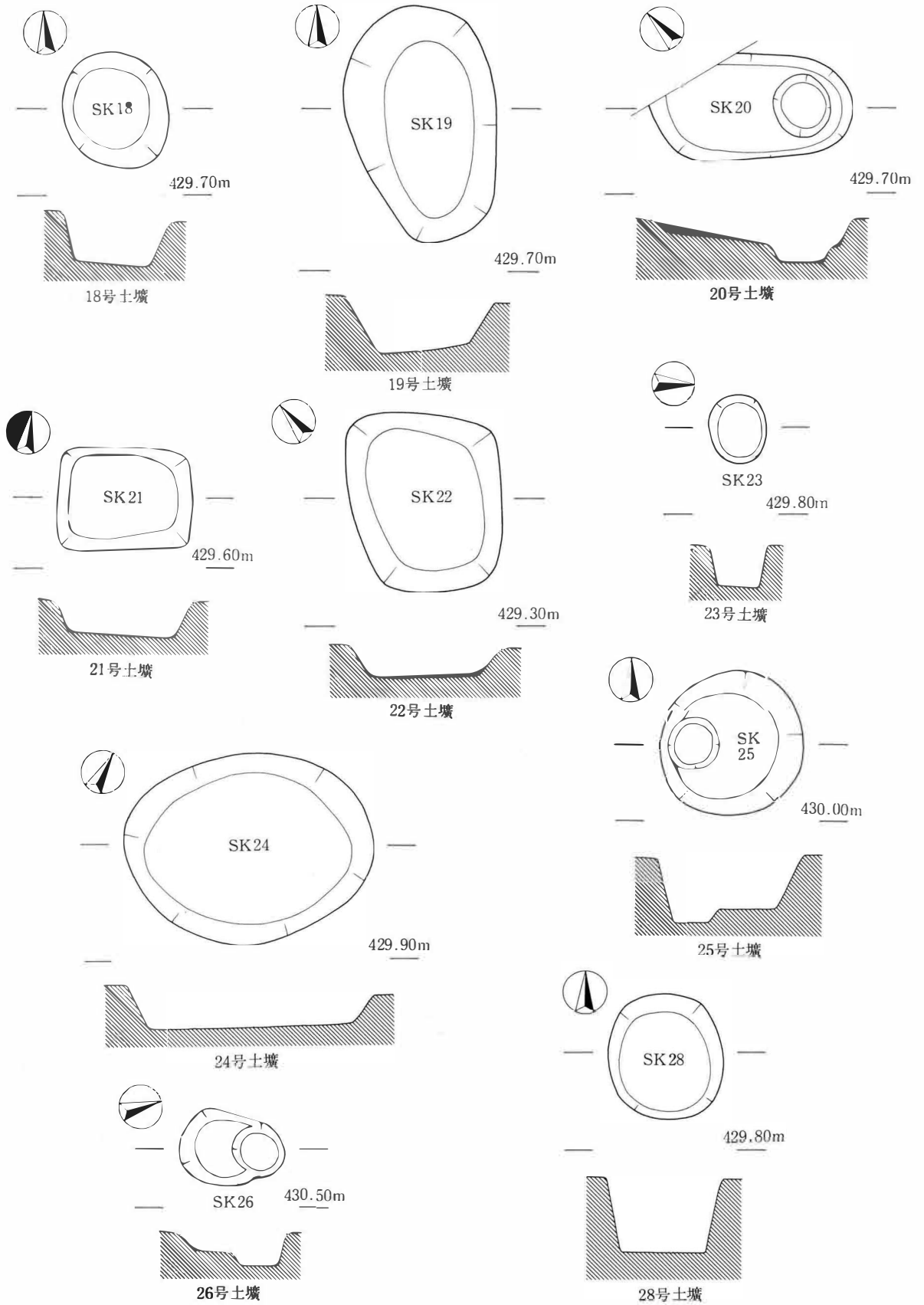


图13 遺構実測図③ (1 : 40)

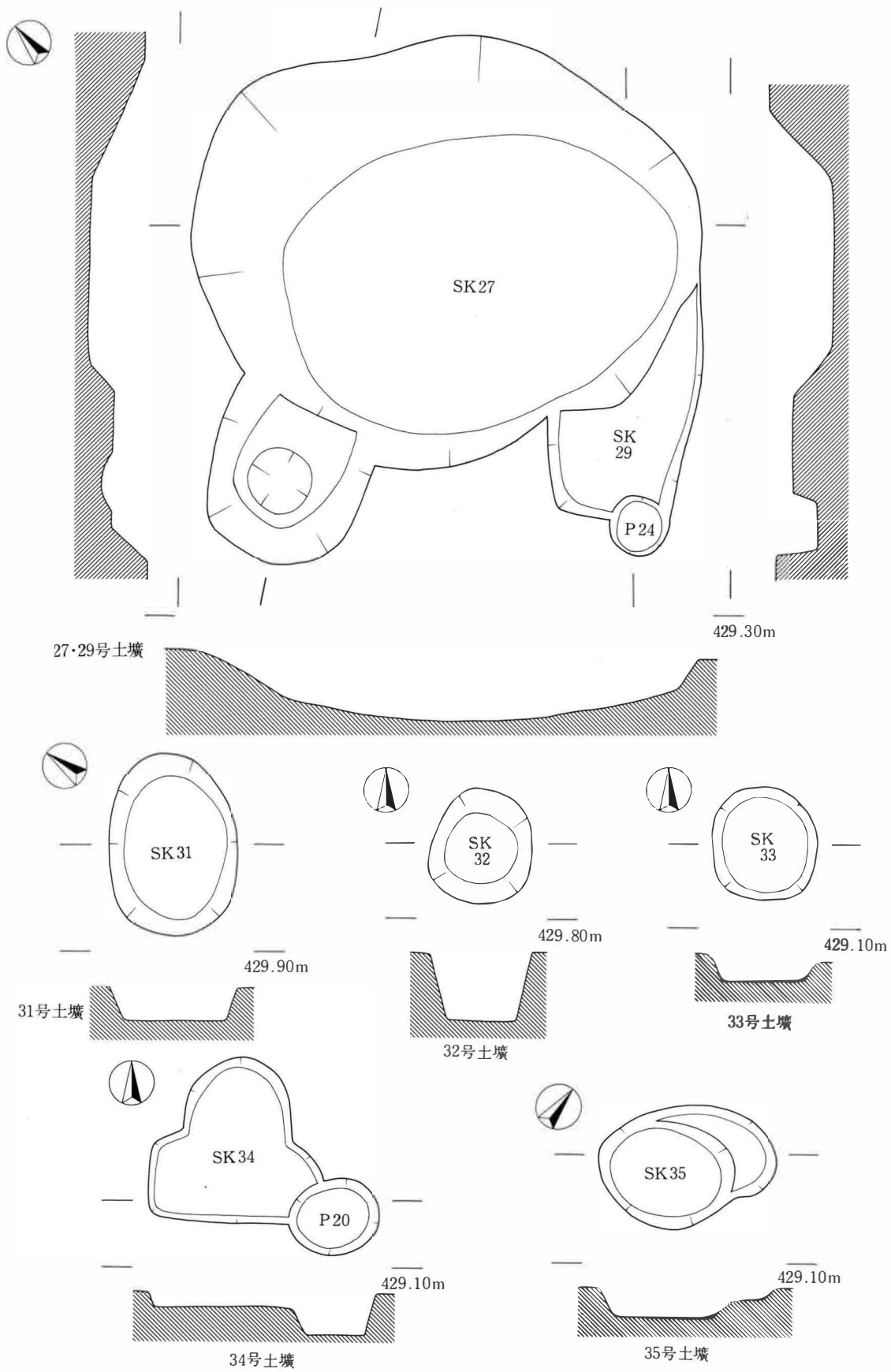


図14 遺構実測図④ (1 : 40)

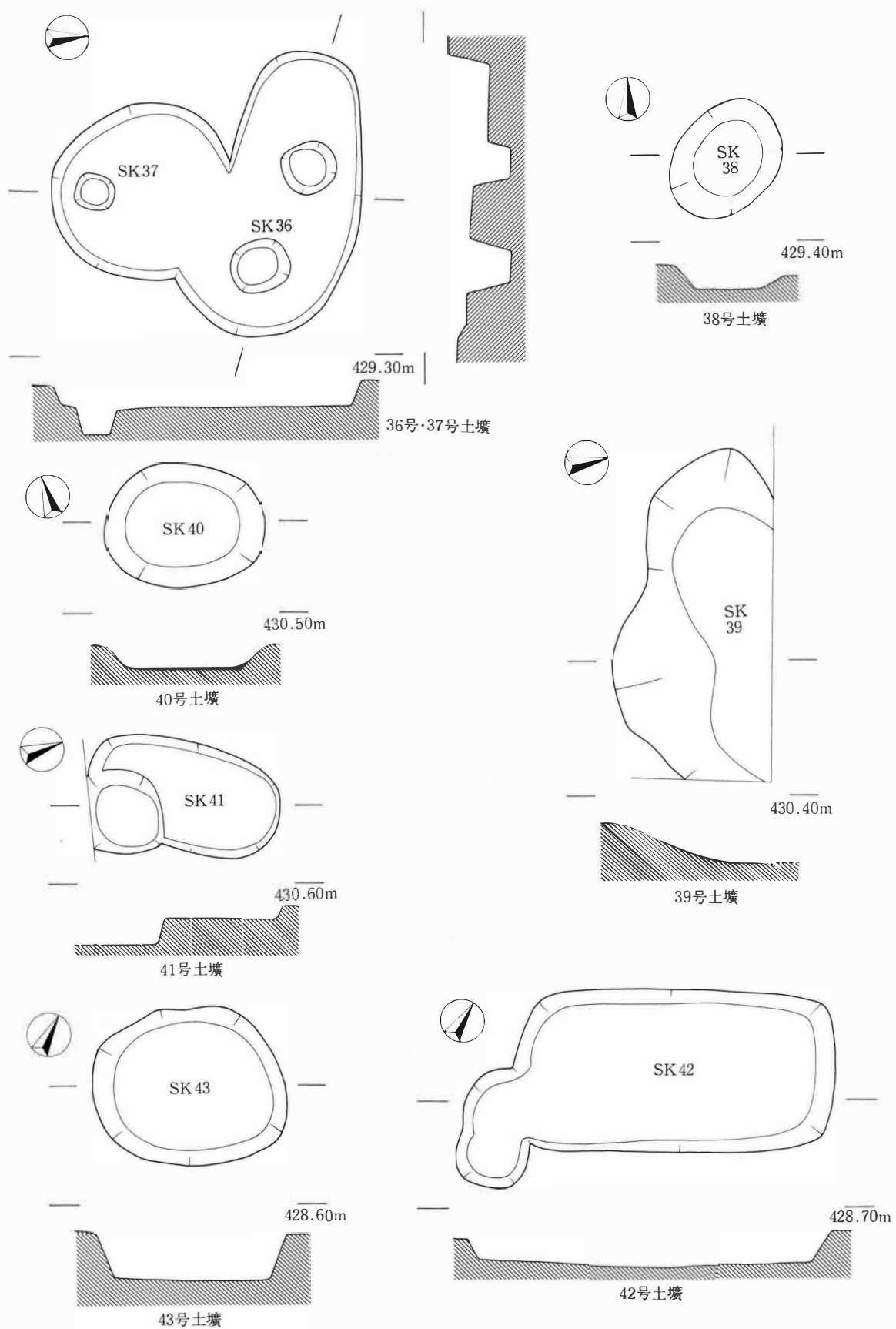


図15 遺構実測図⑤ (1 : 40)

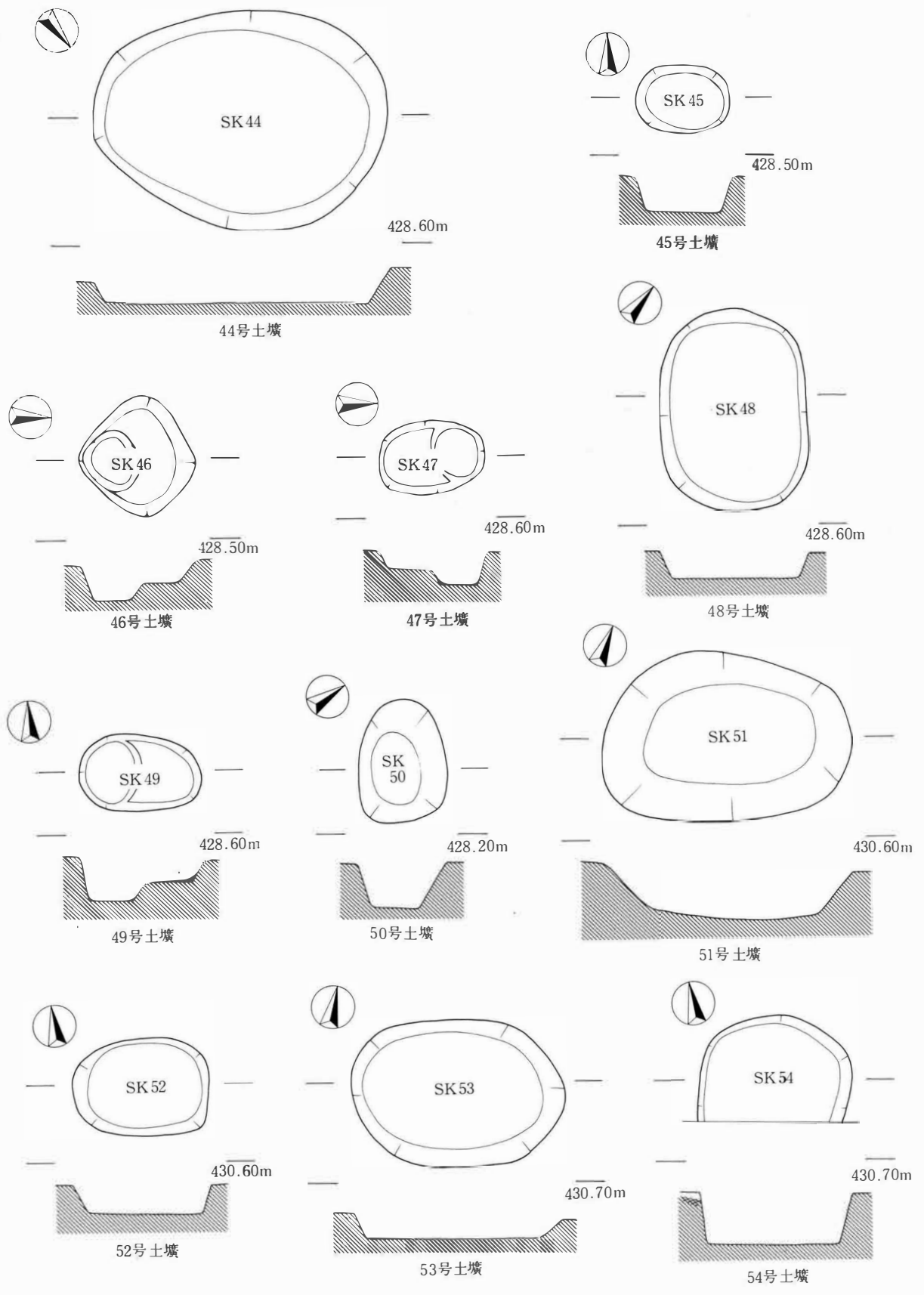


図16 遺構実測図⑥ (1 : 40)

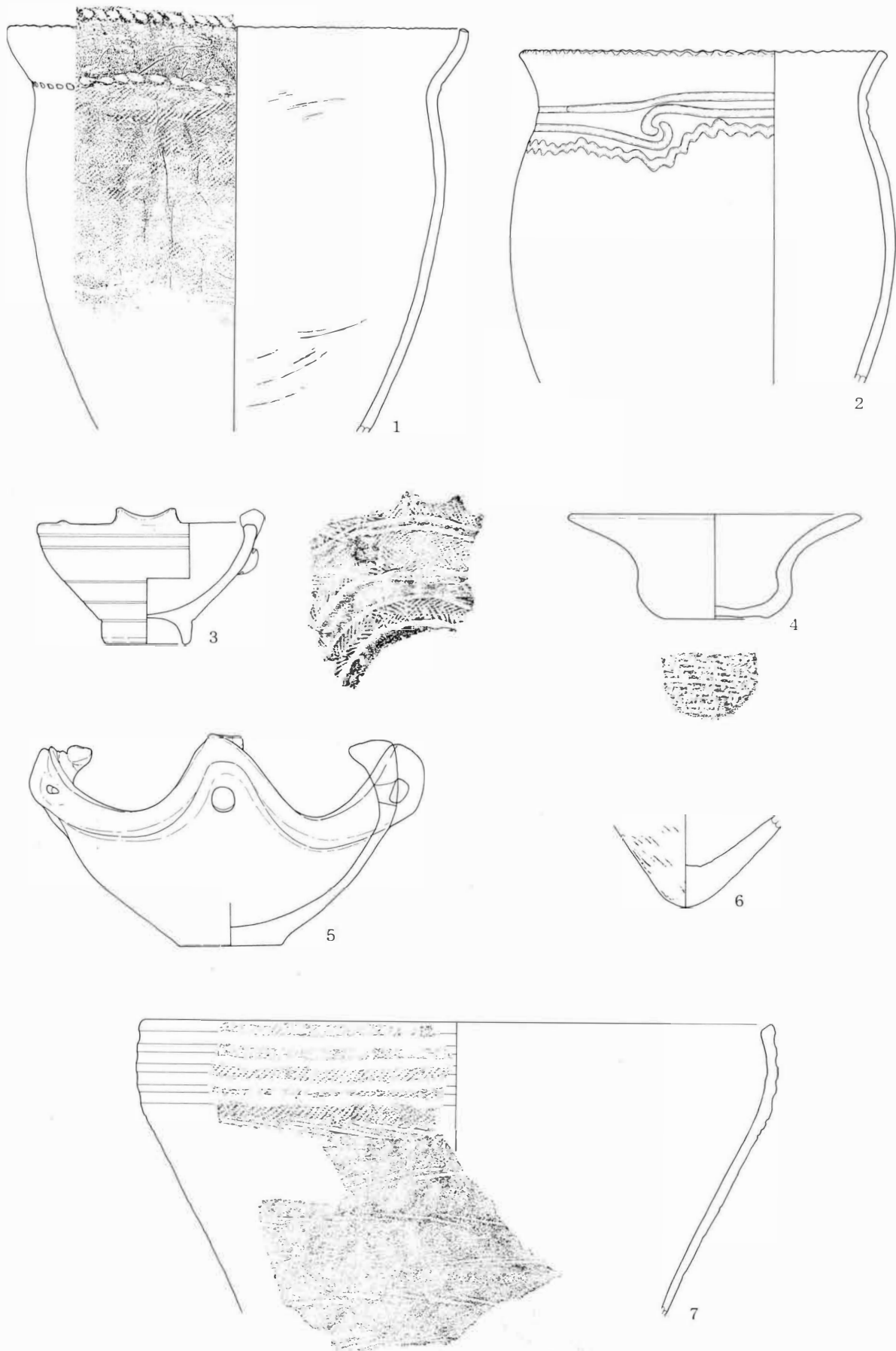
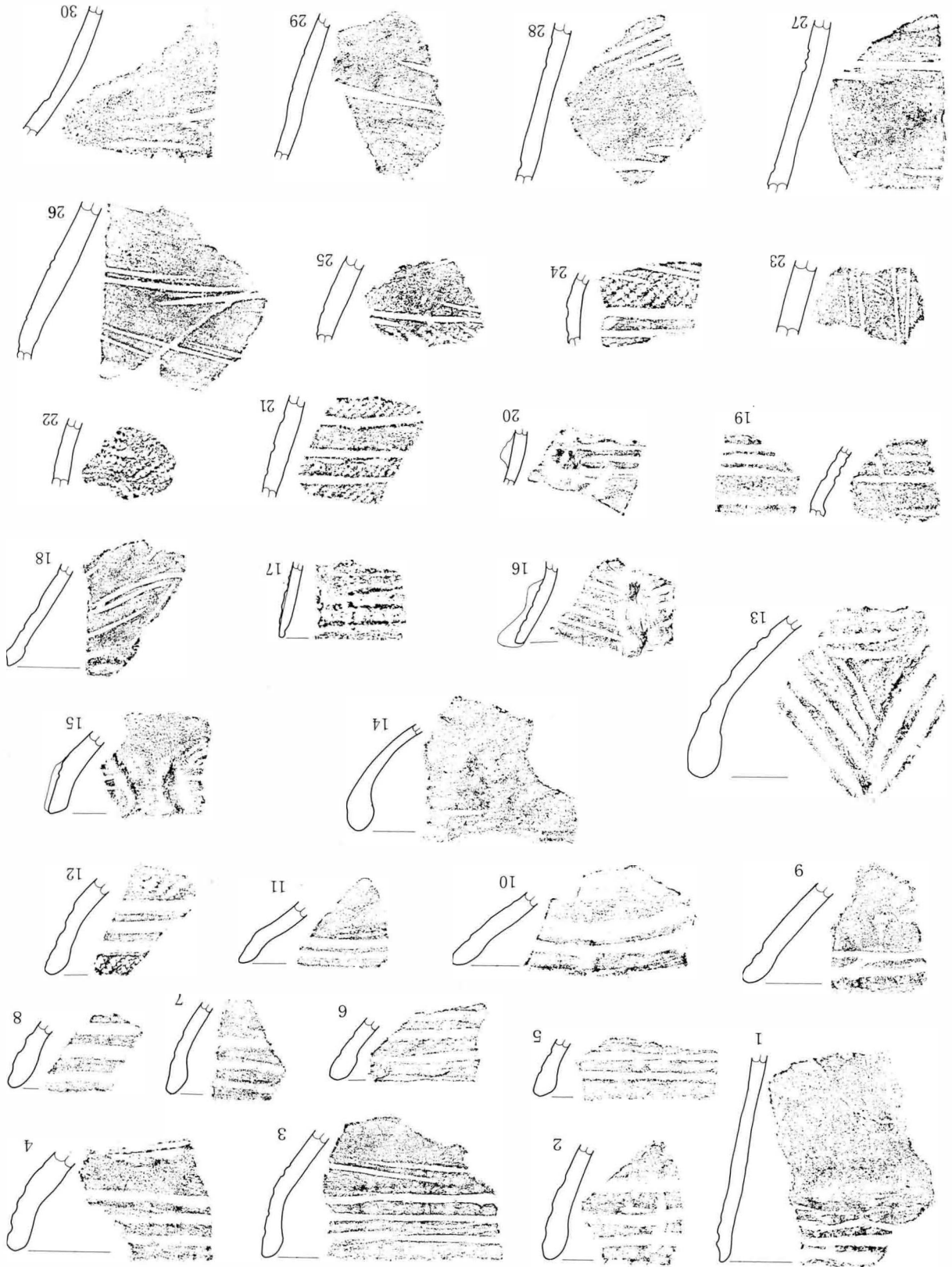
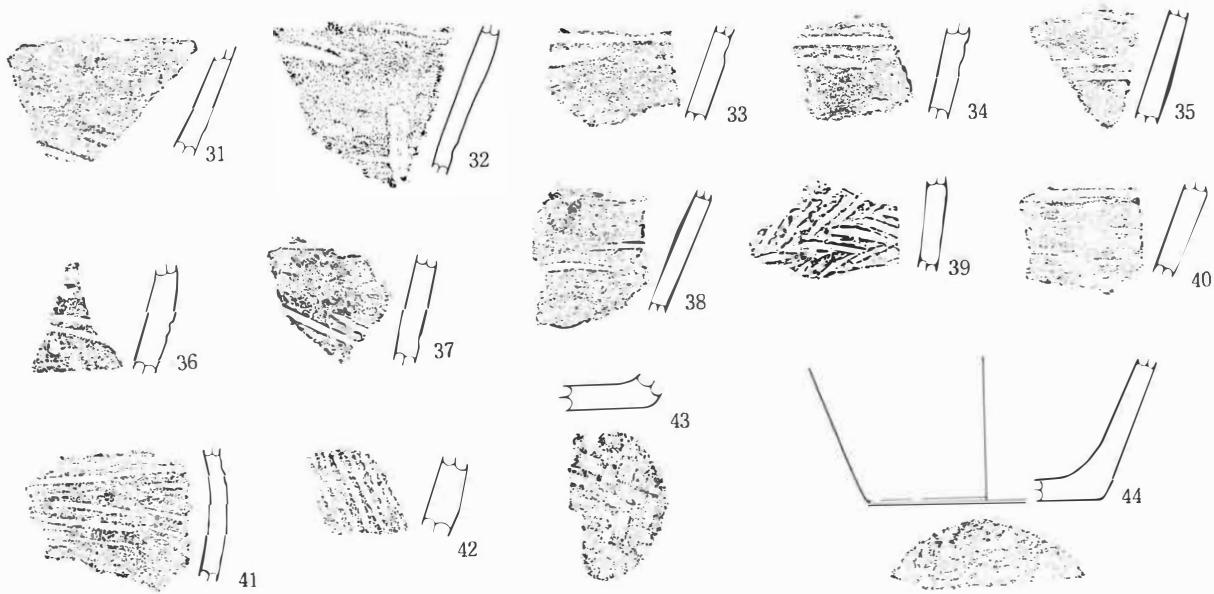


图17 出土土器实测图（1：4）

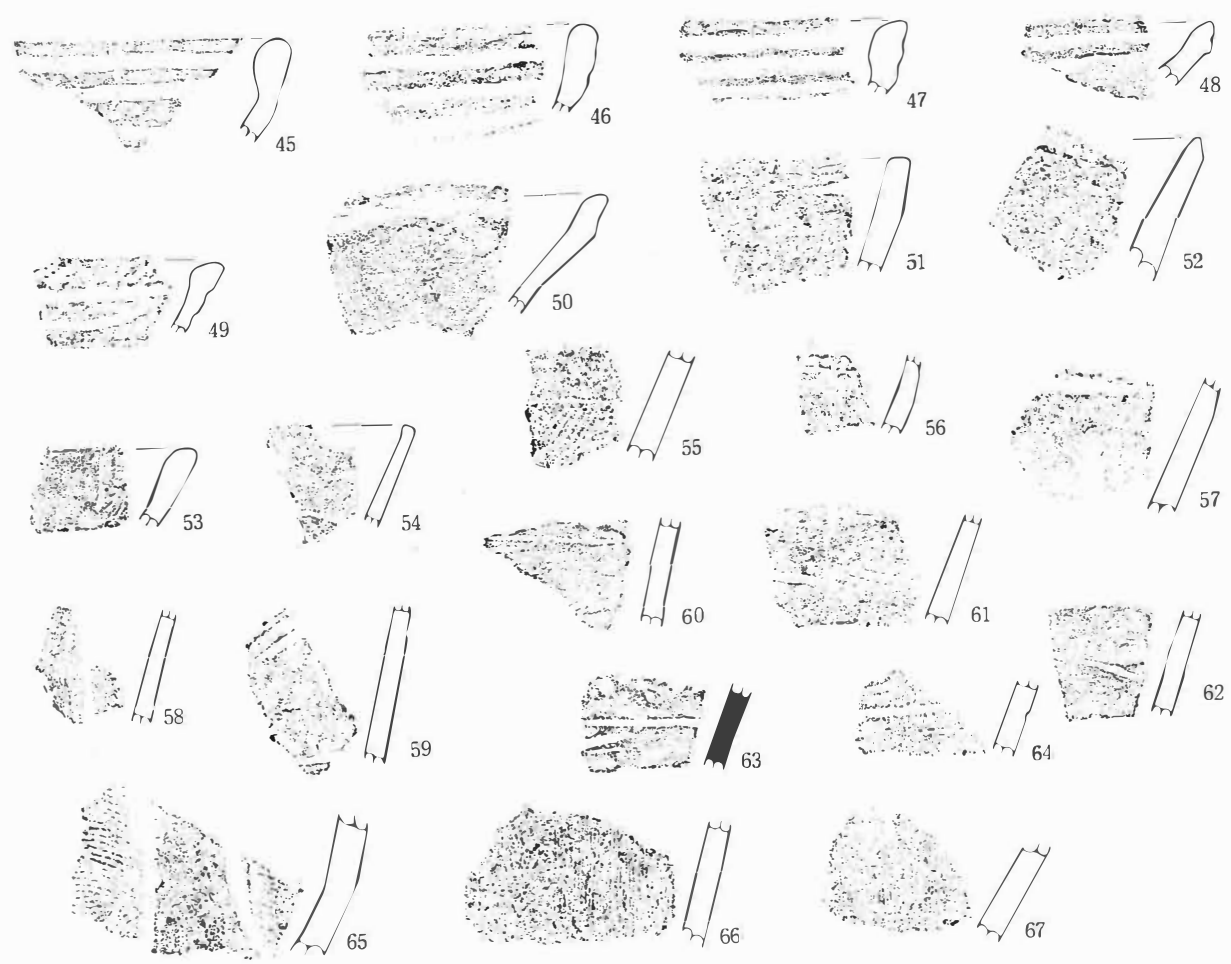
图 18 出干器托器① (1 : 3)

第 1 号 住居址出干器①



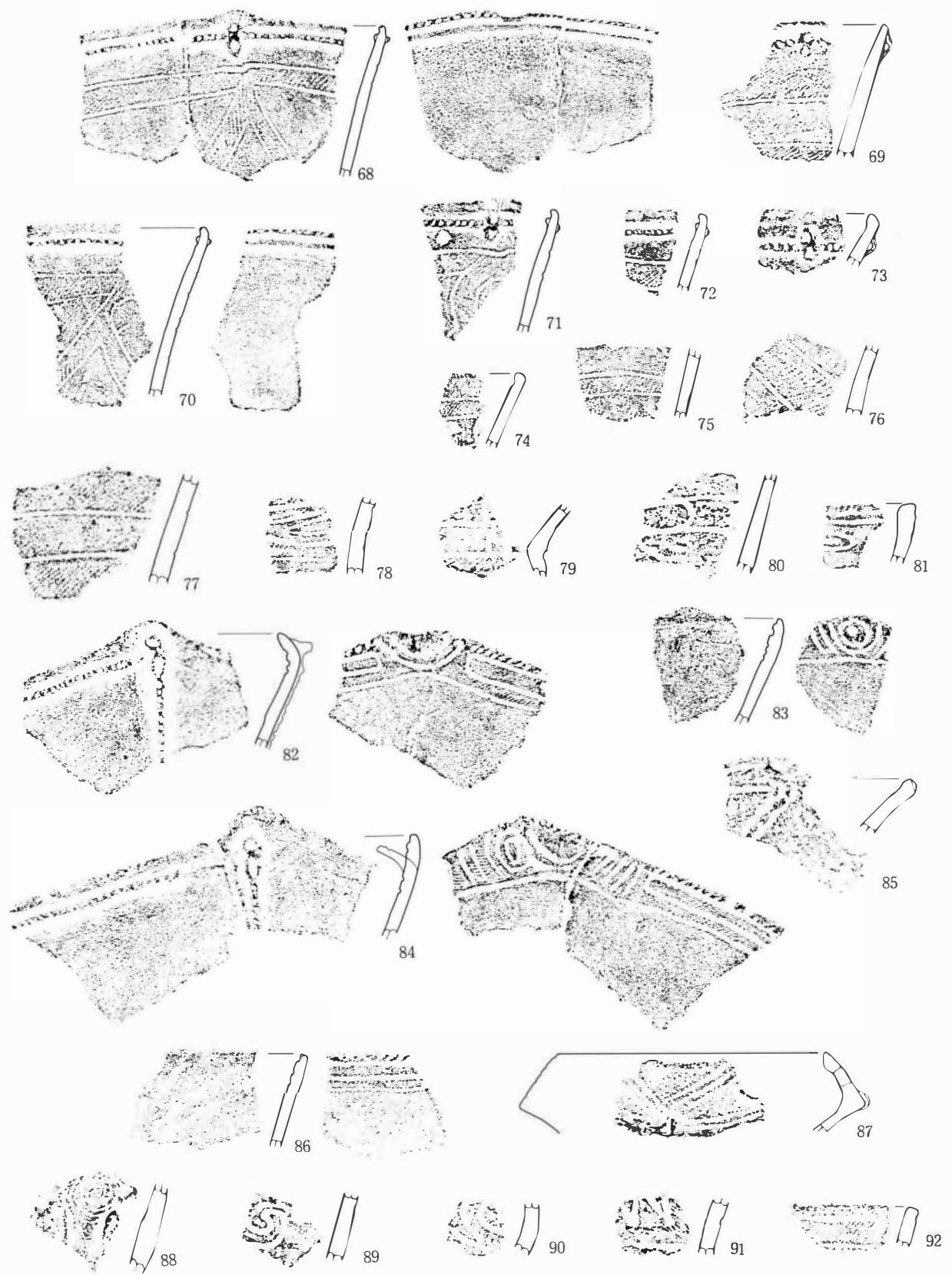


第1号住居址②



1号集石内

图19 出土土器拓影② (1:3)



グリッドC①

図20 出土土器拓影③ (1:3)



グリッドC②

図21 出土土器拓影④ (1 : 3)

图22 出土石器拓影⑤(1:3)

カリノボC③

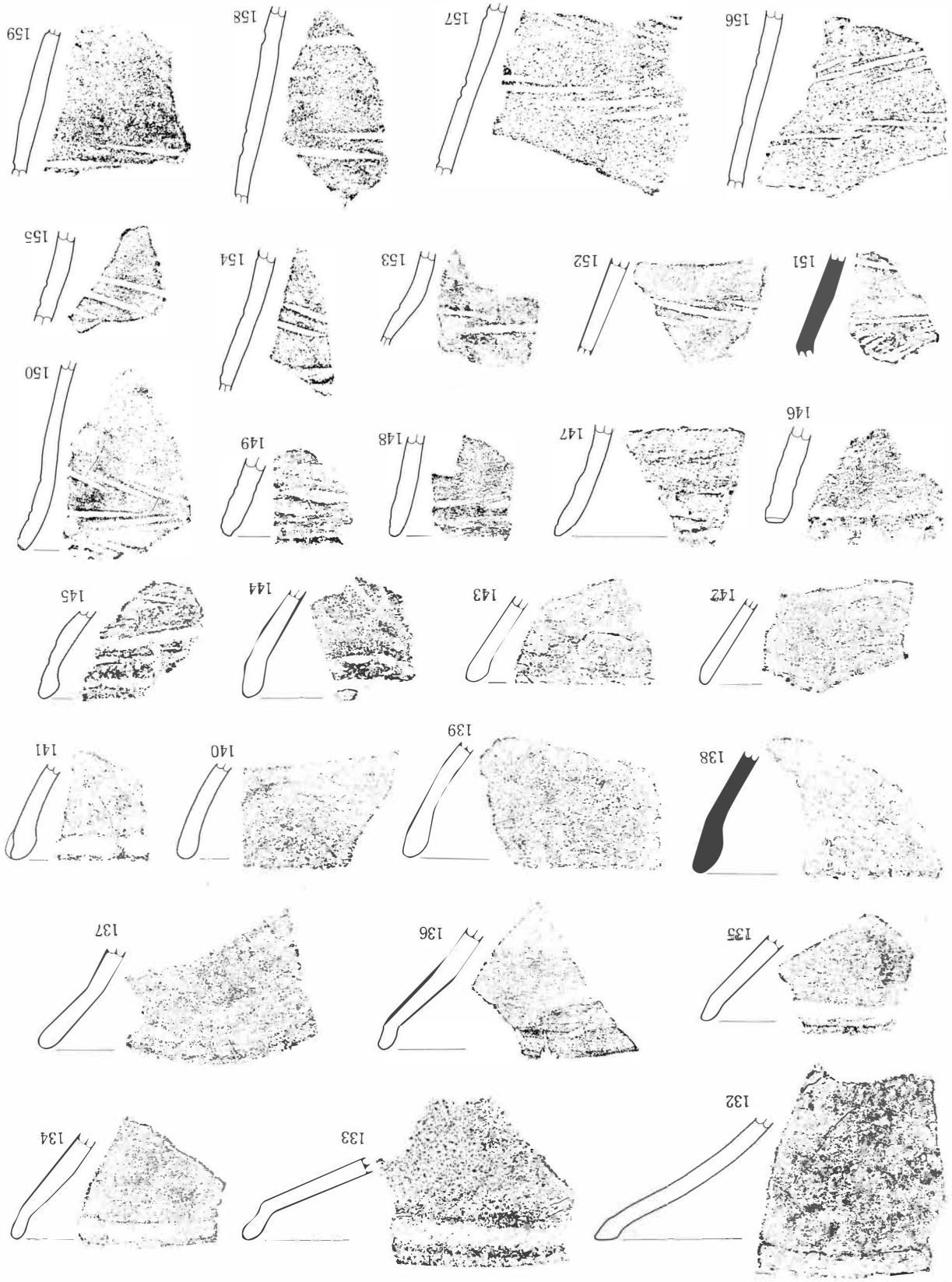
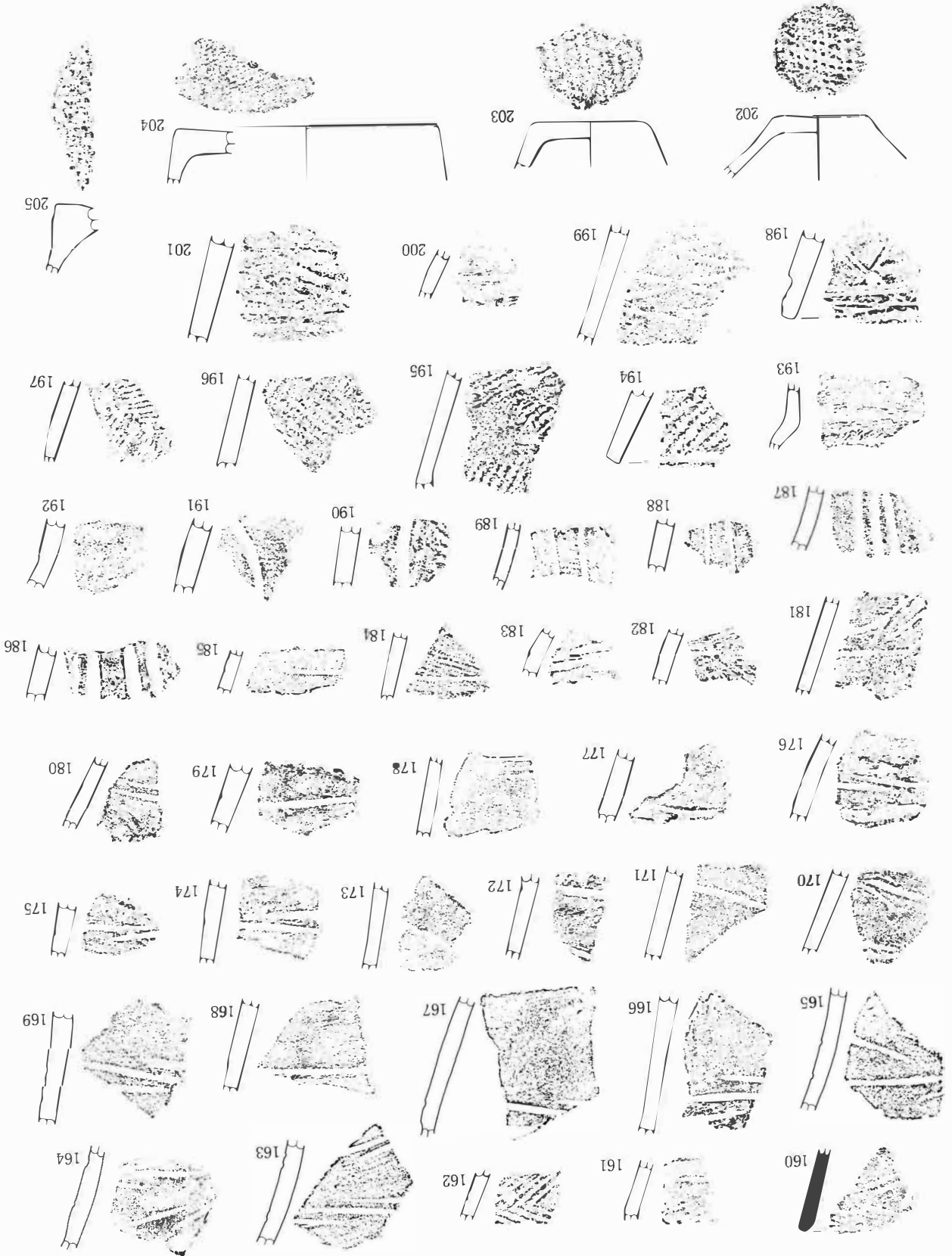


図23 出土土器拓影⑥ (1 : 3)

カ、リ、フ、C、④





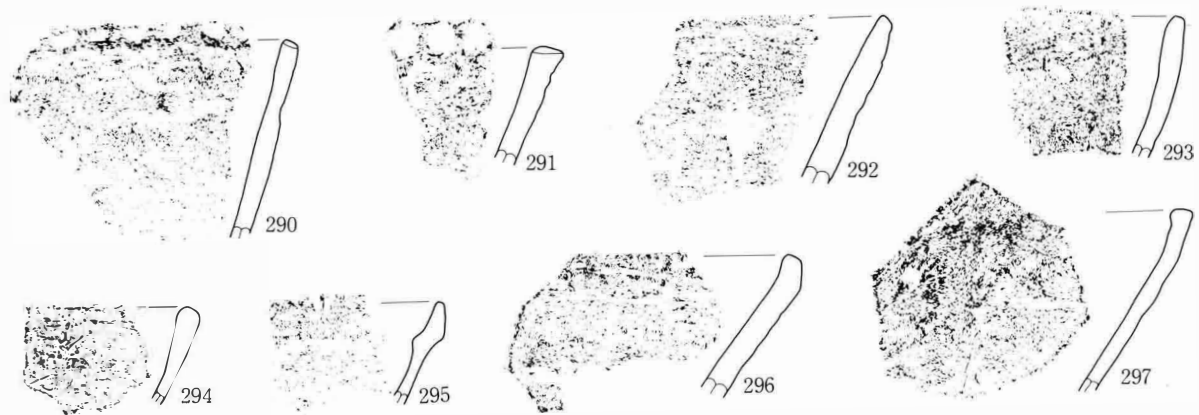
第2号集石

图24 出土土器拓影⑦ (1:3)

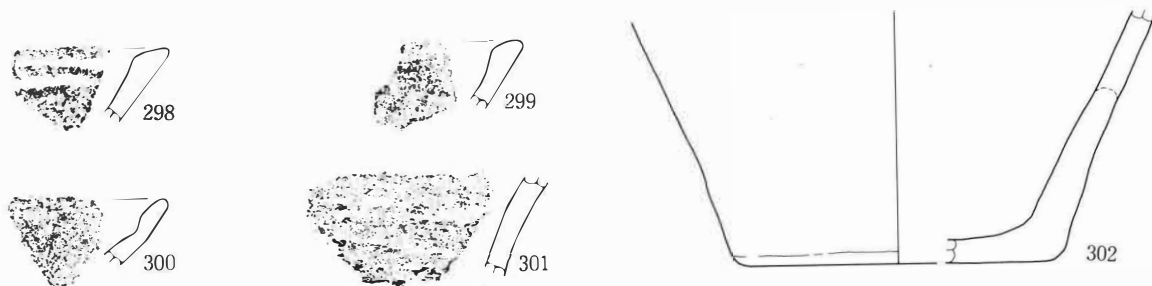


グリッドH①

図25 出土土器拓影⑧ (1:3)



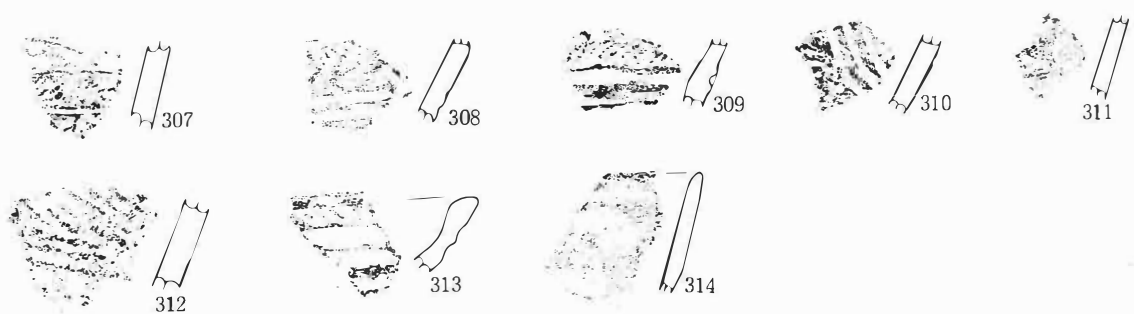
グリッドH②



2号土壙



3号土壙



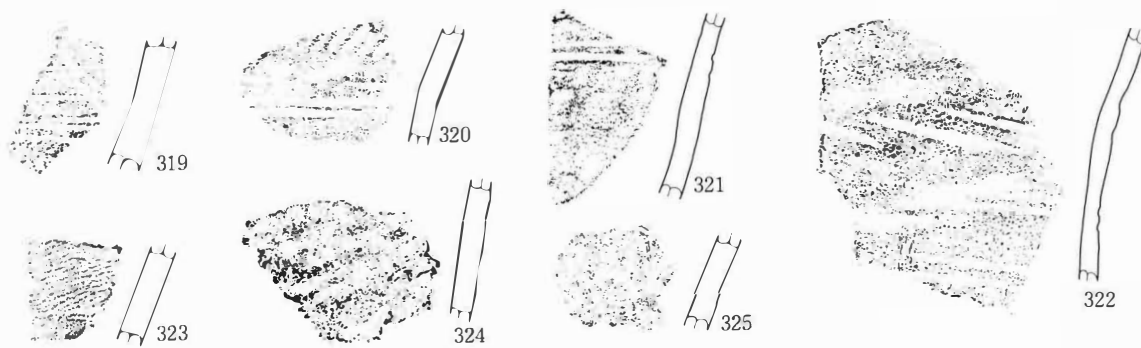
6号土壙



7号土壙

9号土壙

図26 出土土器拓影⑨ (1:3)



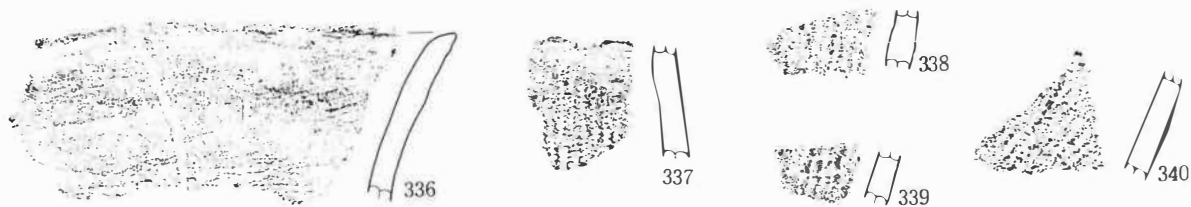
8号土壙



10号土壙



12号土壙



17号土壙



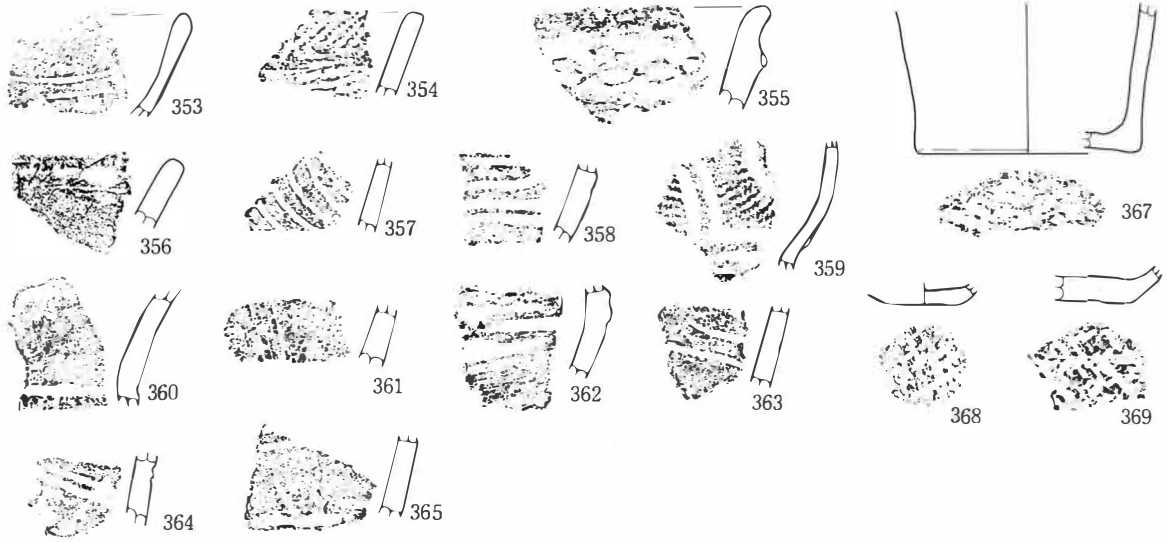
19号土壙



24号土壙

28号土壙

图27 出土土器拓影⑩ (1:3)



27号土壙



31号土壙



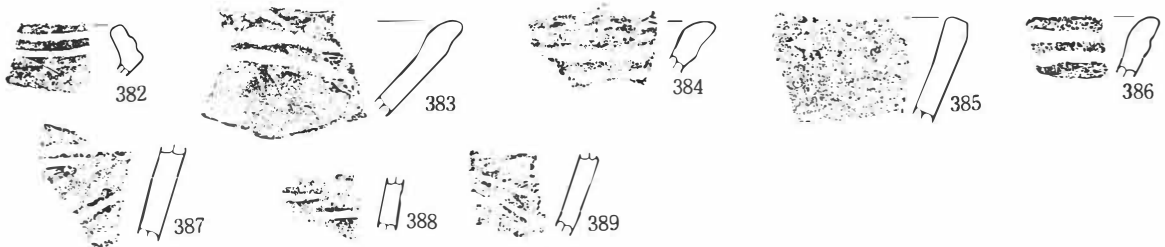
32号土壙

36号土壙



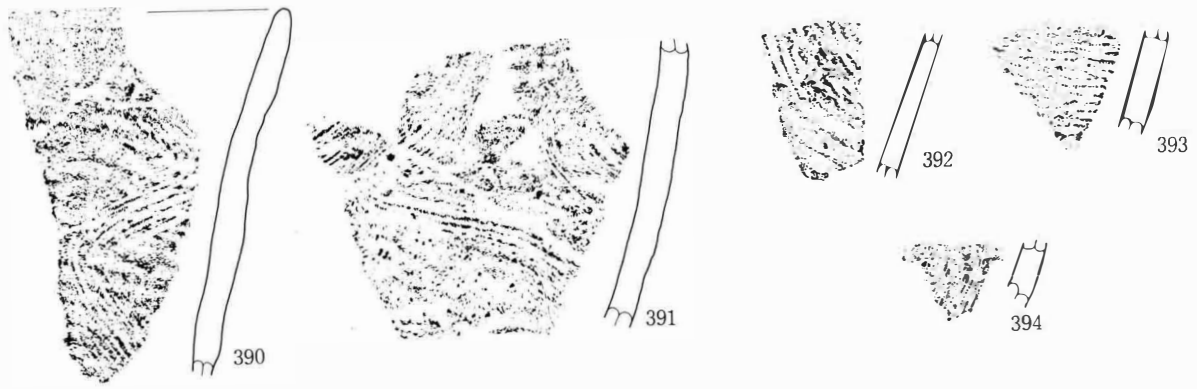
37号土壙

38号土壙



39号土壙

图28 出土土器拓影① (1:3)



40号土城

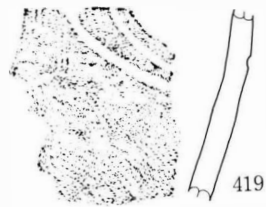


41号土城



42号土城

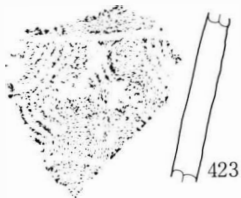
图29 出土土器拓影⑫ (1:3)



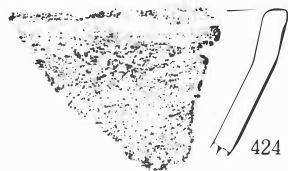
48号土壙



50号土壙



P 9



P 18



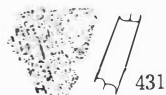
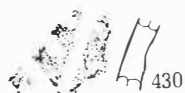
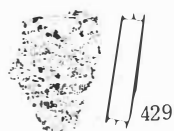
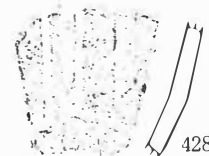
P 19



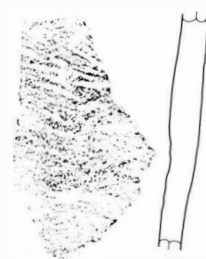
P 26



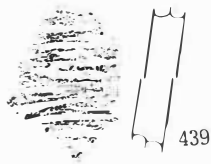
P 30



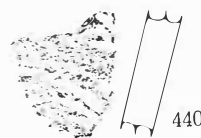
P 32



435



439



440



436

P 38

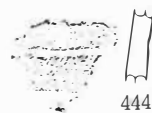
旧流路



442



443



444



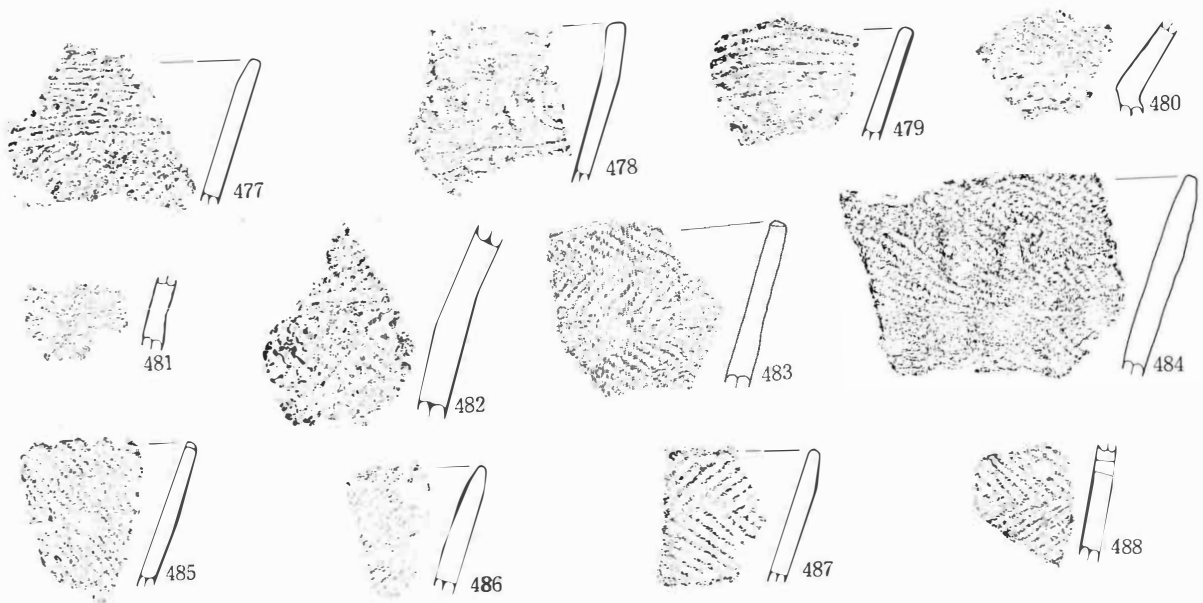
445

グリッドA①

図30 出土土器拓影⑬ (1:3)



グリッドA②

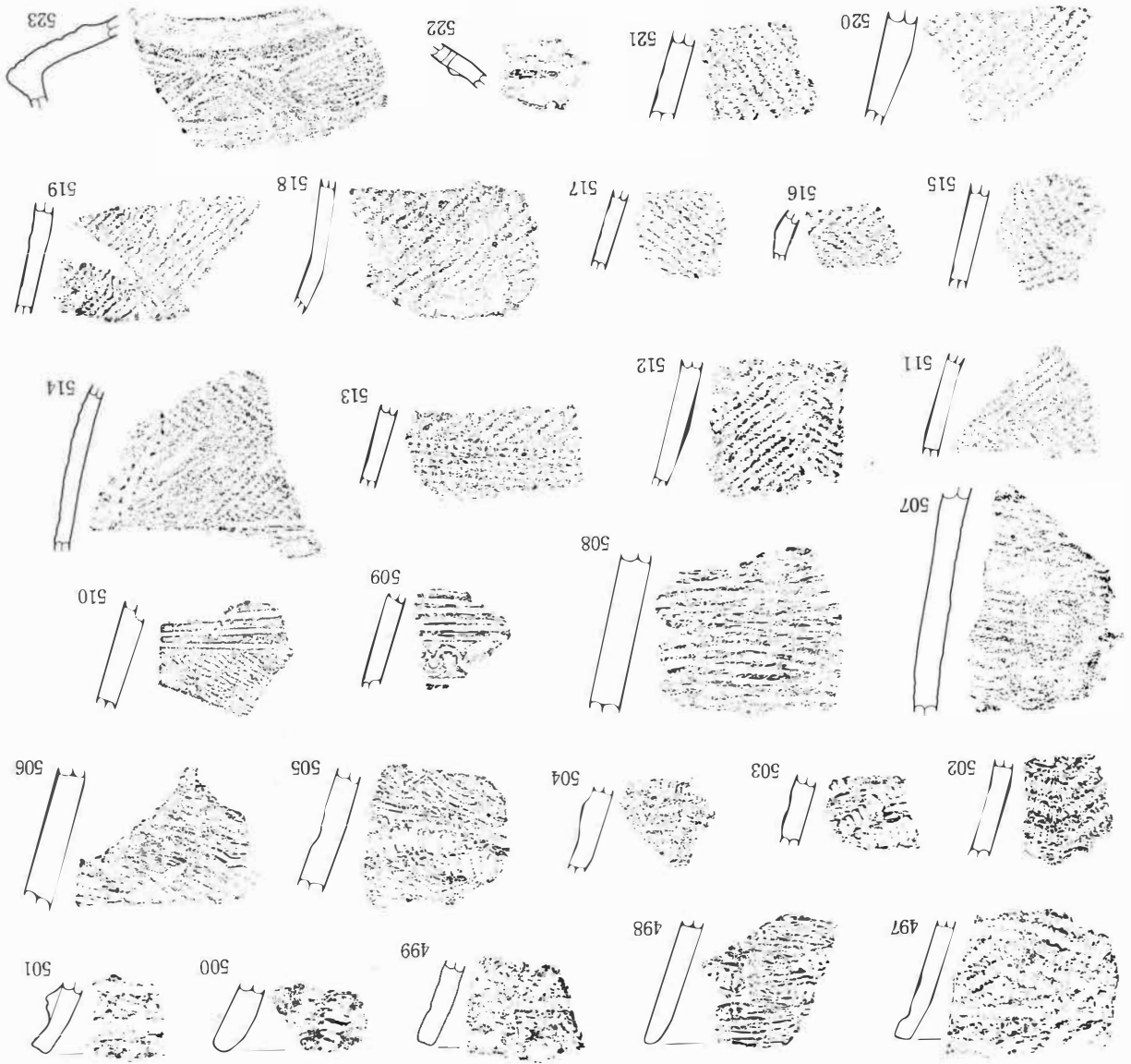


グリッドB①

図31 出土土器拓影⑭ (1 : 3)

图32 出土石器拓影① (1:3)

檢出面①



アリスFB②

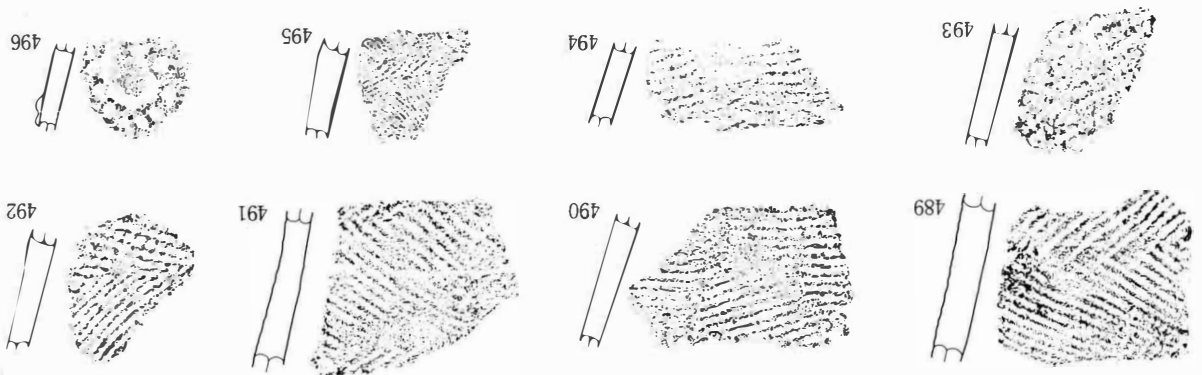
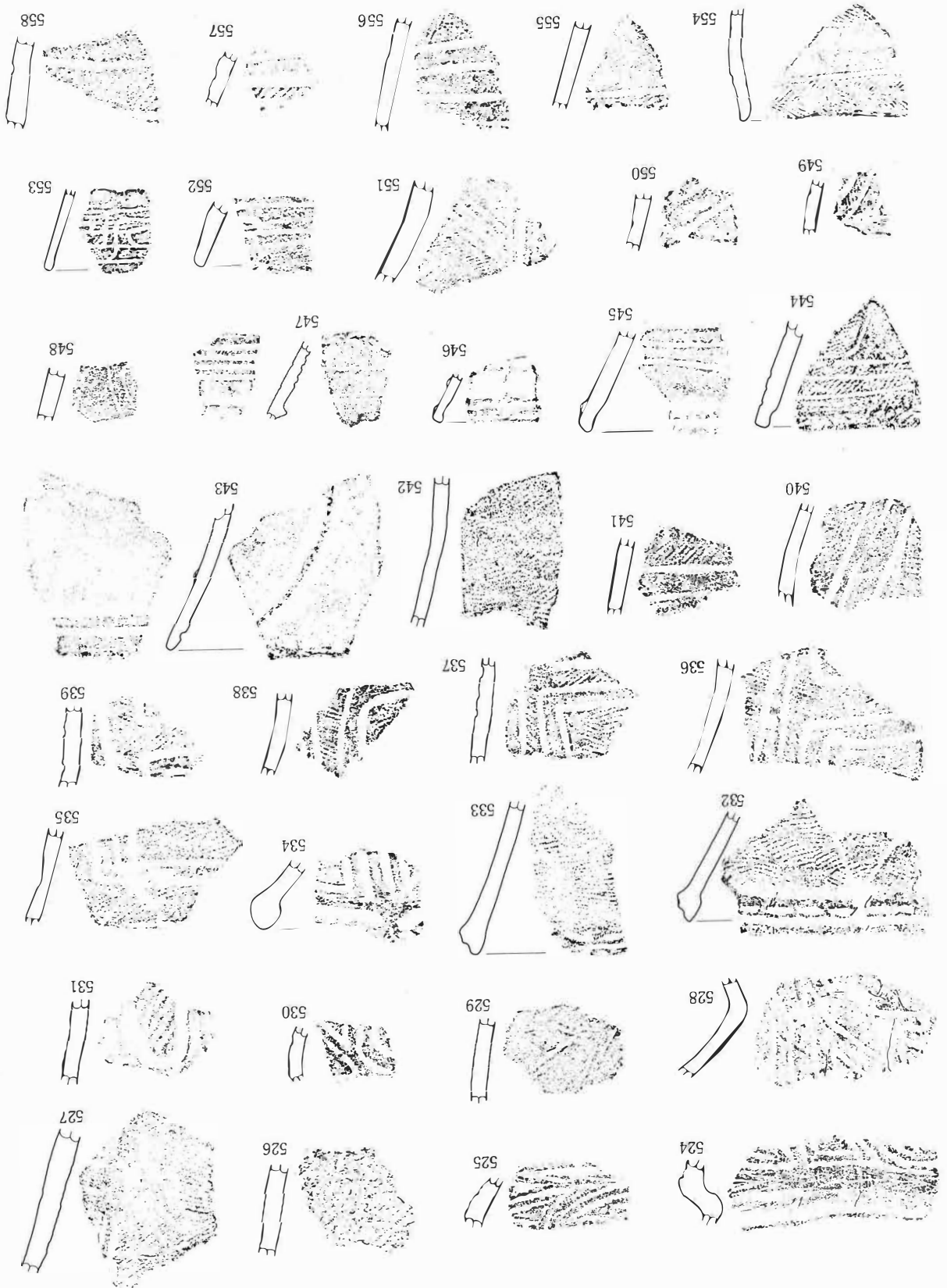


图33 出土石器拓影⑩ (1:3)

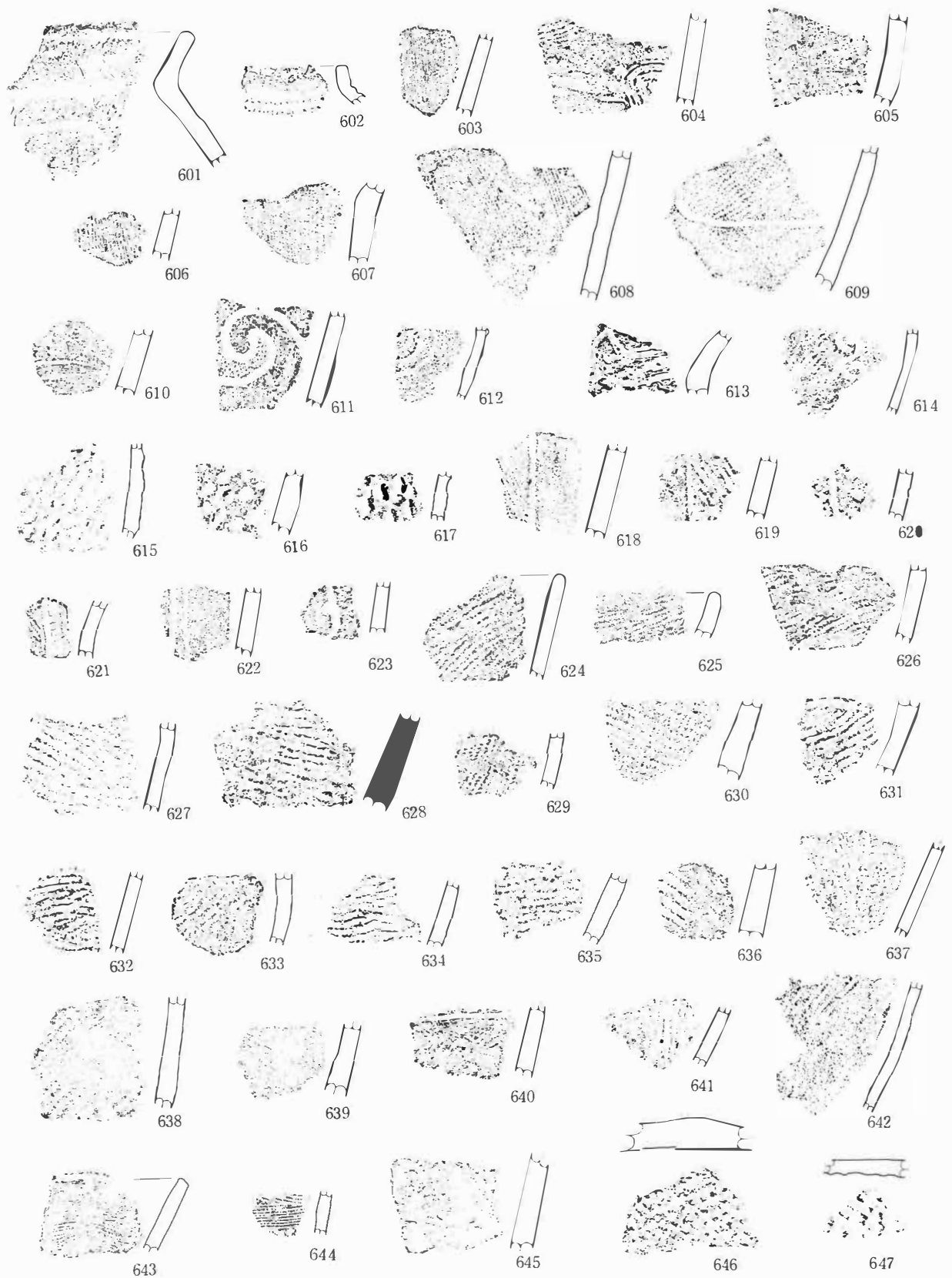
検出面②





検出面③

図34 出土土器拓影⑰ (1:3)



検出面④

图35 出土土器拓影⑩ (1:3)



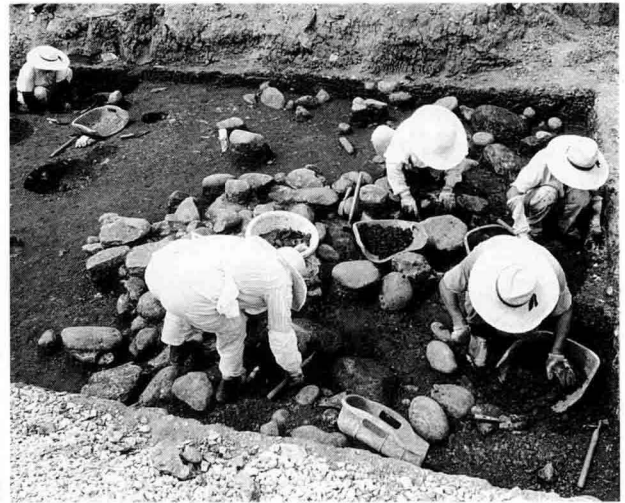
重機表工剥ぎ



調査風景



調査風景



調査風景



上層全景



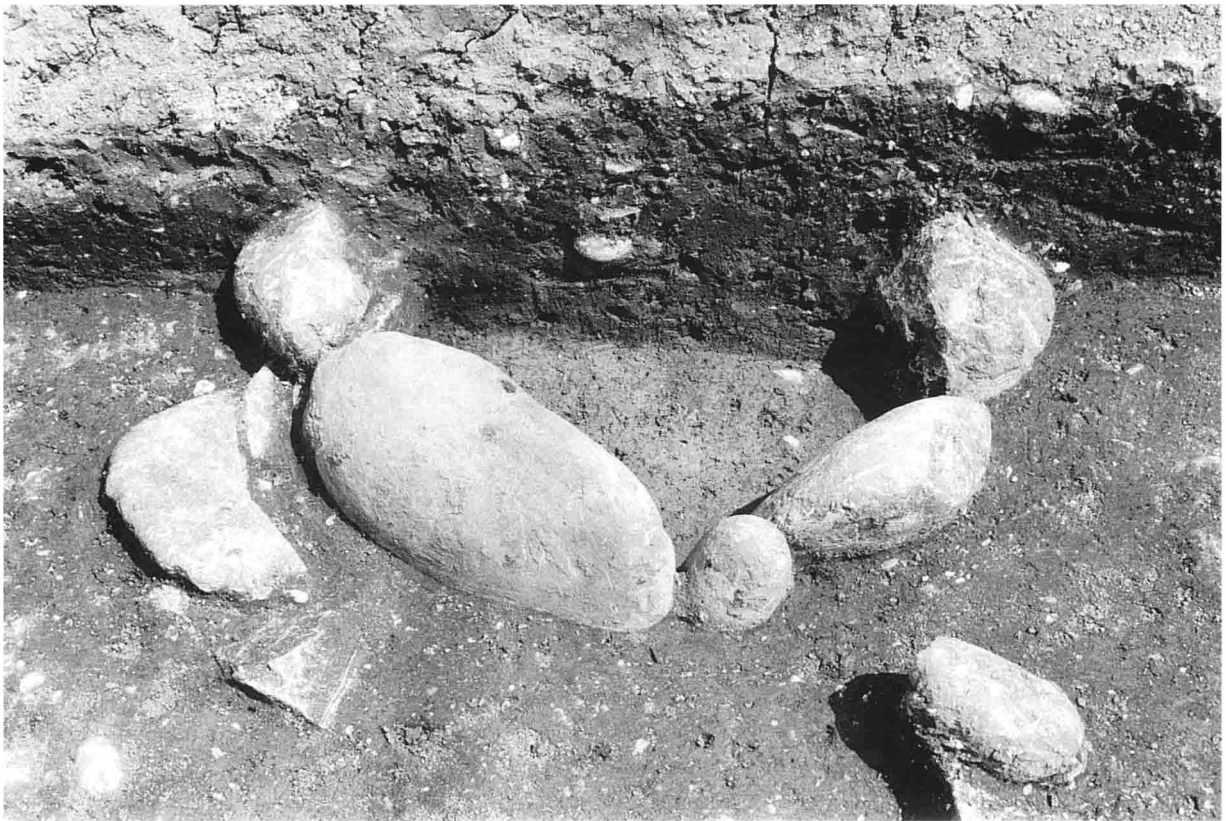
第1号（敷石）住居址



第1号住居址・第1号集石



第1号集石



第2号住居址



第2号集石



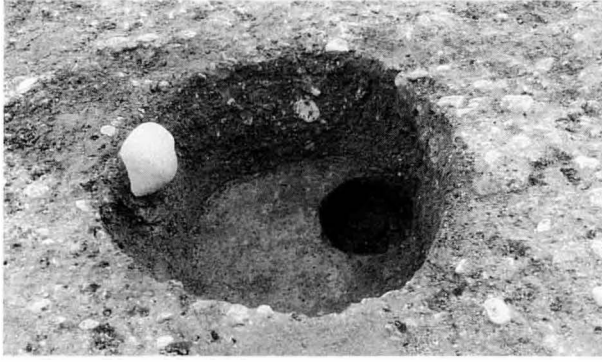
第2号集石

20号土壘土器出土状況



13号土壘土器出土状況

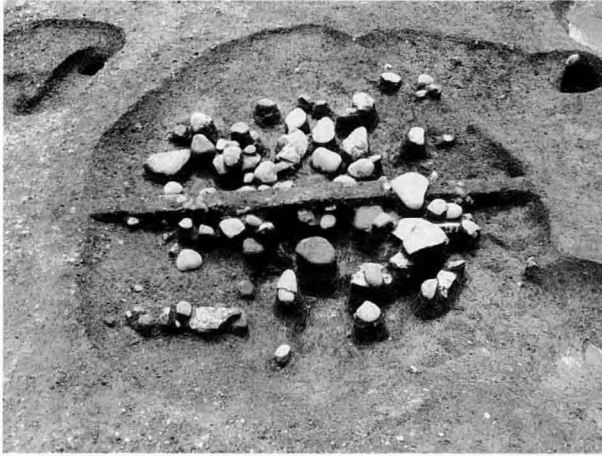




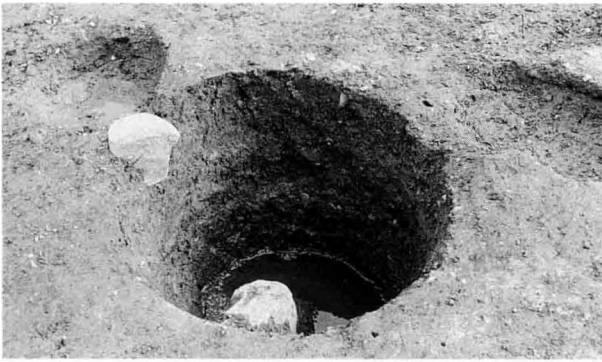
25号土坑



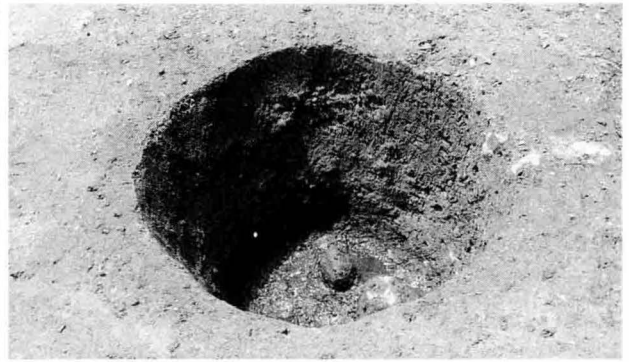
24号土坑



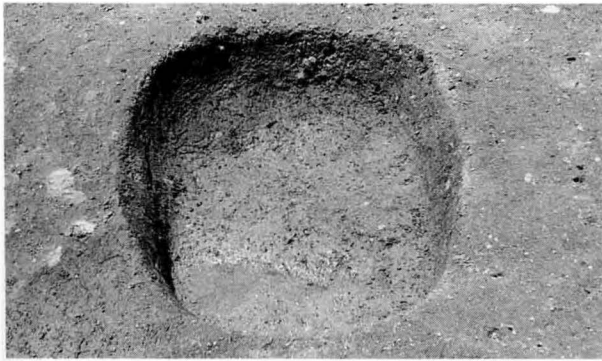
27号土坑



28号土坑



32号土坑



31号土坑



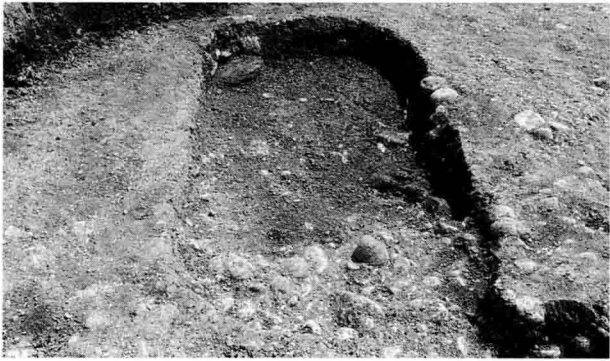
30号土坑



36・37号土壙



33~35号土壙



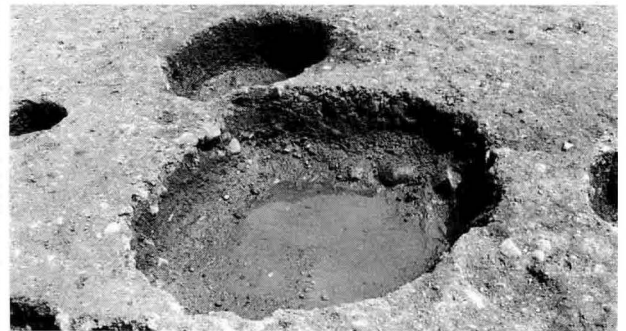
42号土壙



44号土壙



51号土壙



43土壙



52号土壙



54号土壙



13号土壙出土土器



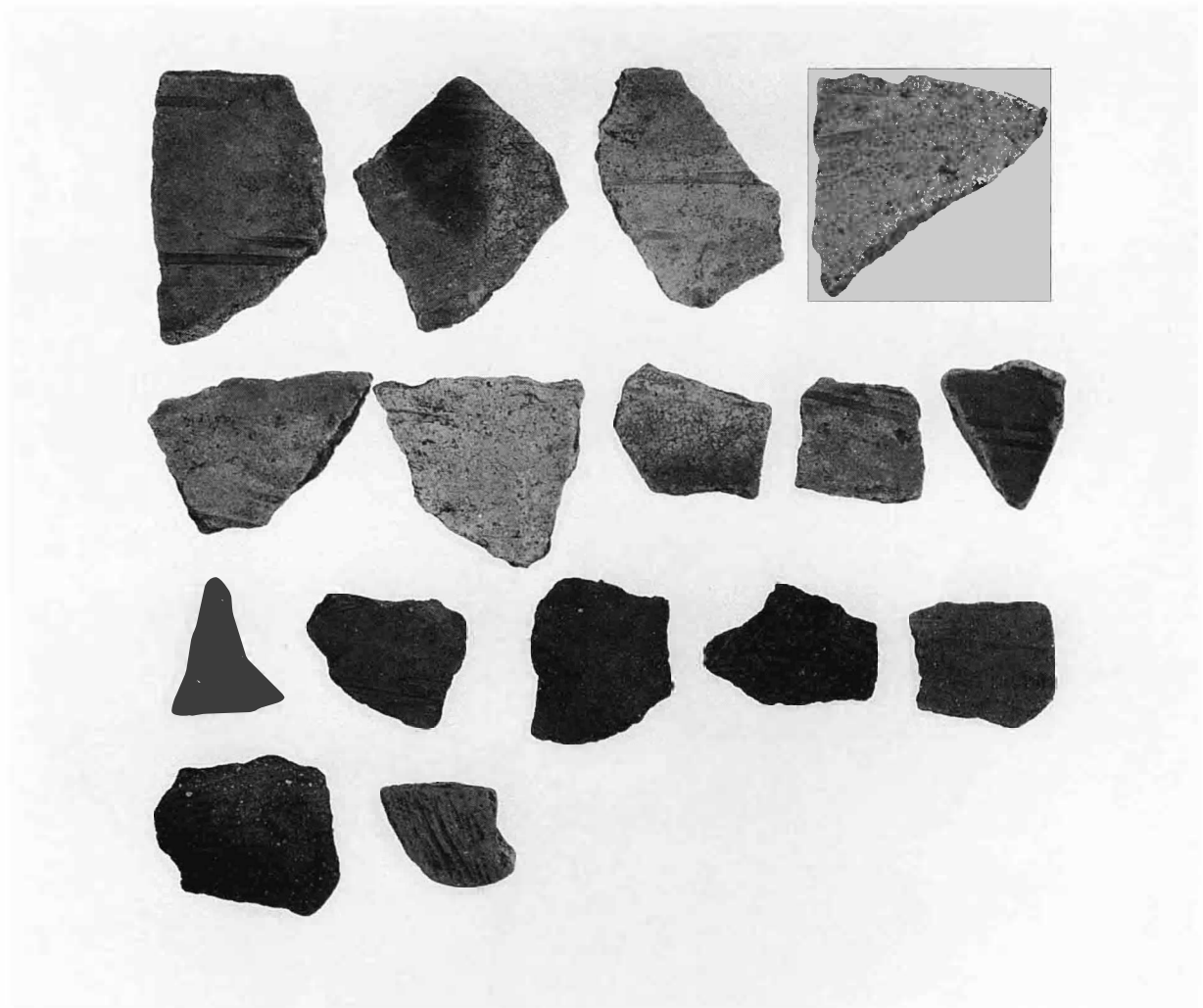
1号集石出土土器



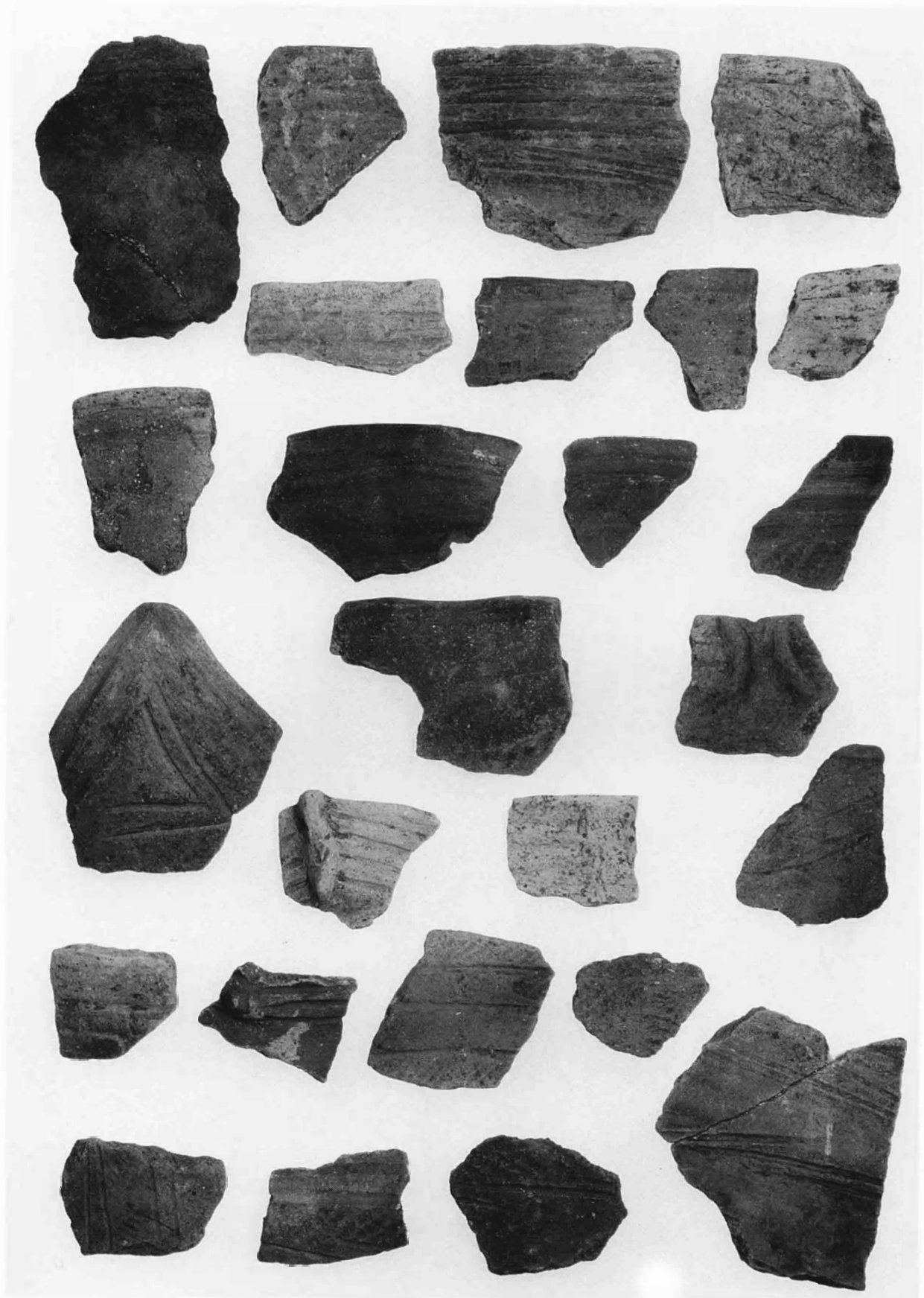
20号土坑出土土器



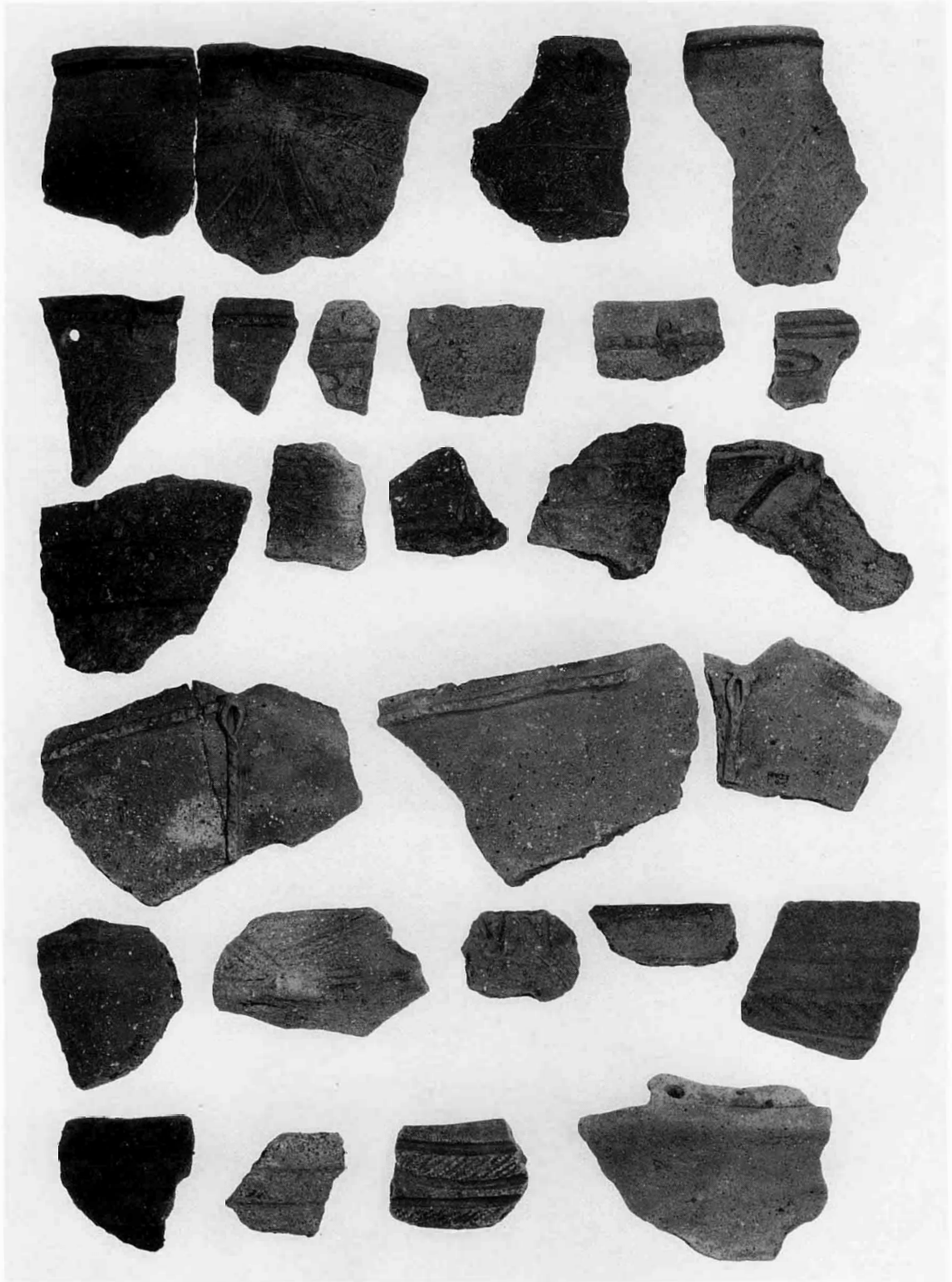
1号住居址出土土器



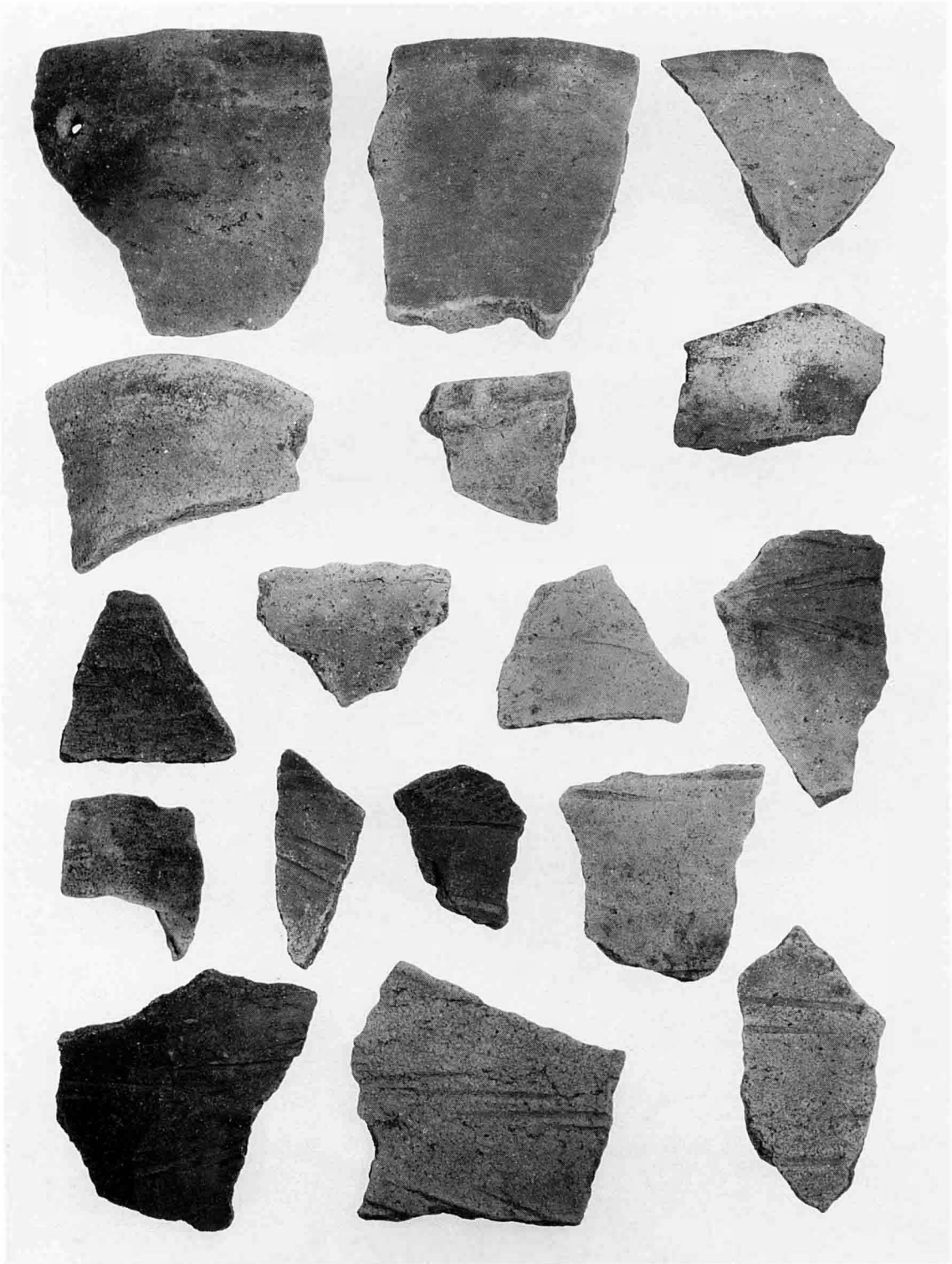
1号住居址出土土器



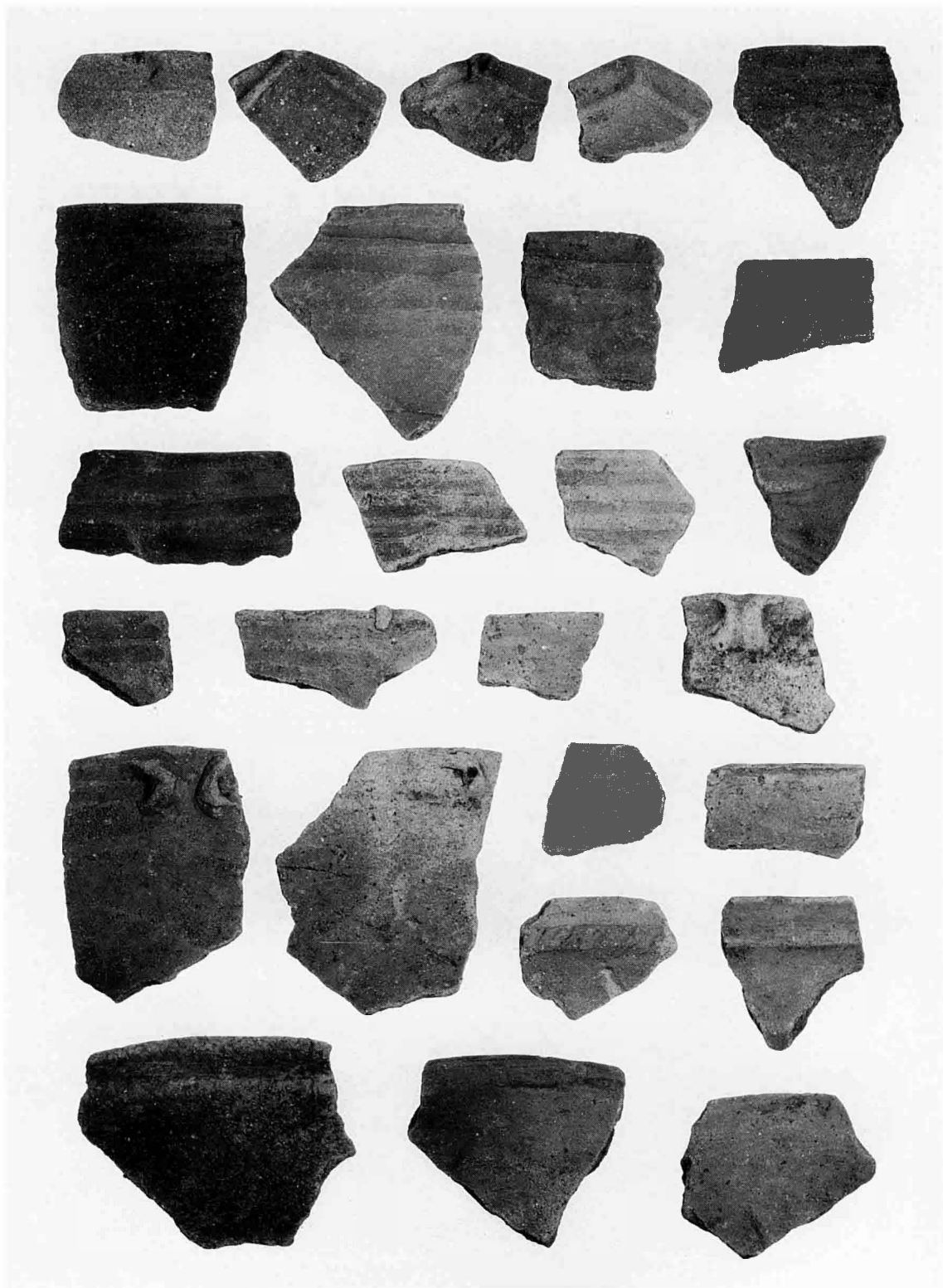
1号住居址出土土器



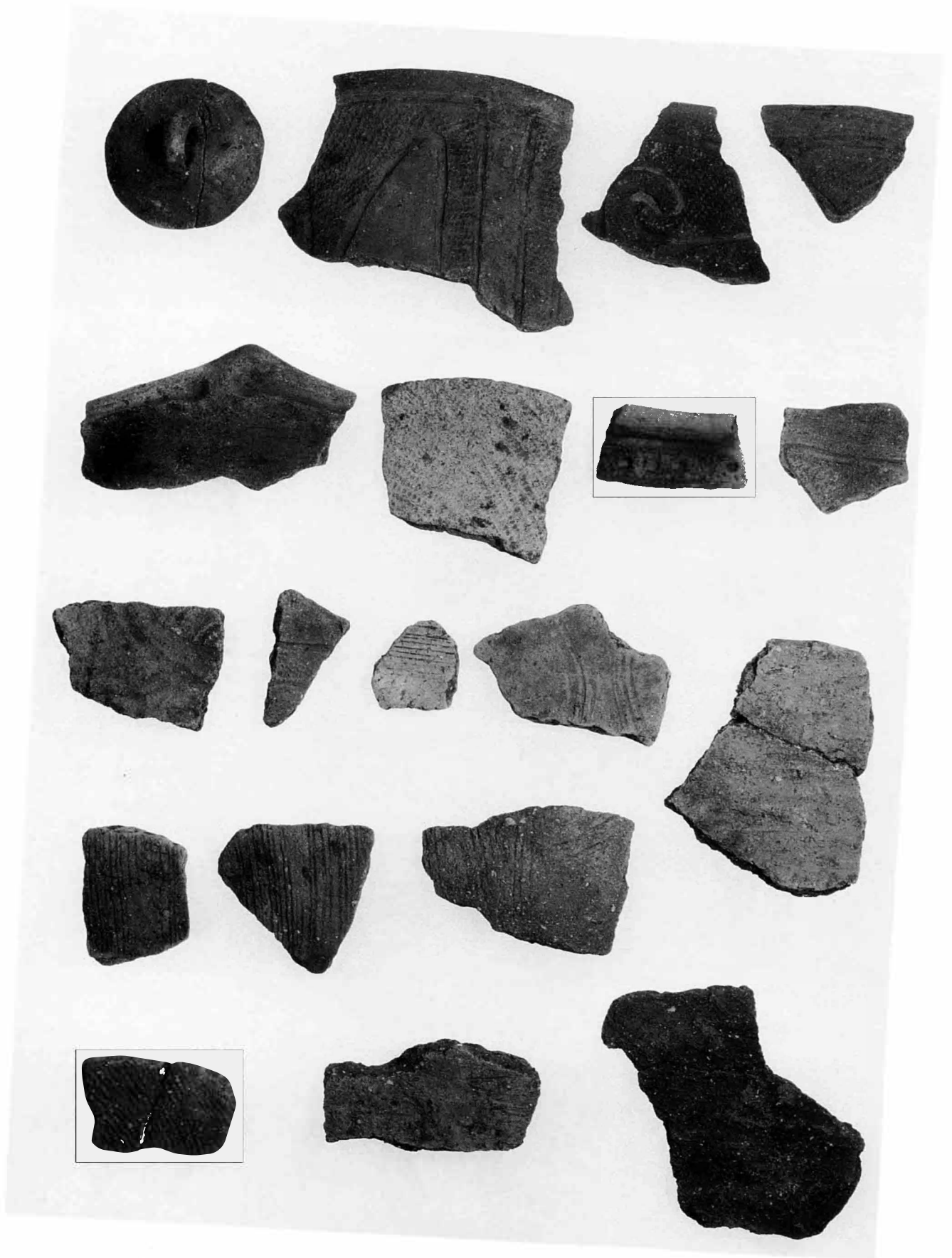
グリッドC 出土土器



グリッドC 出土土器



グリッドC 出土土器



42号土壙出土土器



27号住居址



グリッドC



グリッドC



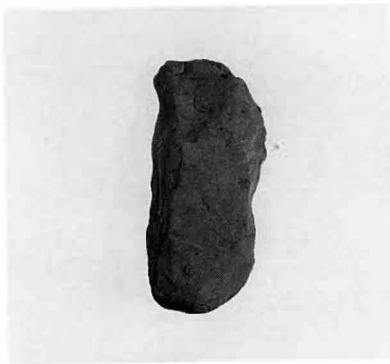
グリッドC



グリッドC



遺構外



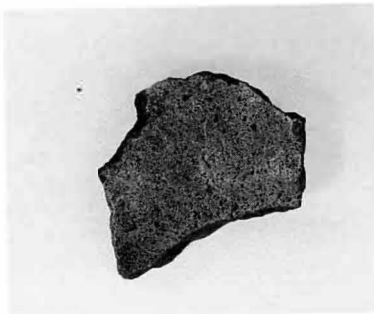
遺構外



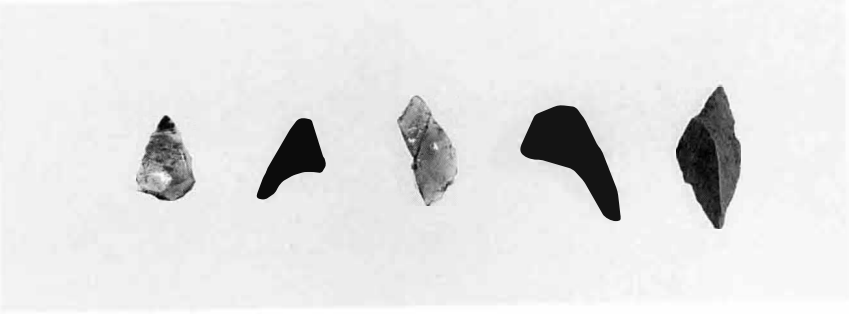
遺構外



遺構外



遺構外



遺構外

報告書抄録

ふりがな	あさかわせんじょうちいせきぐん まつのきだいせき							
書名	浅川扇状地遺跡群 松ノ木田遺跡Ⅱ							
副書名	飯綱高原浅川線道路改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ名	長野市の埋蔵文化財							
シリーズ番号	第82集							
編著者名	千野 浩							
編集機関	長野市教育委員会 埋蔵文化財センター							
所在地	〒381-22 長野市小島田町1414 長野市立博物館内 Tel 026-284-0004							
発行年月日	1997年3月31日							
印刷製本	奥山印刷工業株式会社							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° / ' / "	東経 ° / ' / "	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
まつのきだ 松ノ木田 遺跡	ながのけん ながのし 長野県長野市 あさかわひがしじょう 大字浅川東条 286-1	20201		36度 40分 44秒	138度 12分 13秒	1995年 6月20日 8月11日	960㎡	道路改良 事業
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
松ノ木田 遺跡	集落 址	縄文時代	住居址 2 集石遺構 2 土壇 81 柱穴 多数 旧流路 1		土器 磨磨製石斧 石剣			

長野市の埋蔵文化財第82集

浅川扇状地遺跡群松ノ木田遺跡Ⅱ

平成9年3月25日 印刷
平成9年3月30日 発行

編集 長野市教育委員会
発行 長野市埋蔵文化財センター
印刷 奥山印刷工業株式会社